

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書原典講読Ⅱ a	左近 豊
前期・2単位	<登録条件>ヒブル語基礎文法修得者
<p><授業の到達目標及びテーマ> 旧約聖書ヒブル語本文を読む。テキストの文献学的諸問題、そして文芸学的特長を把握することを目的とする。</p>	
<p><授業の概要> 五書からは創世記、預言者からはアモス書、諸書からは哀歌を取り上げる。それぞれに旧約の民の歩みの重要な局面で語られてきた言葉であり、旧約聖書の間観、世界観、そして歴史観を反映している。写本、古代訳を参照しつつヒブル語本文を読む。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：創世記 2:4b~7 天地創造</p> <p>第2回：創世記 2:7~17 地の生物、植物</p> <p>第3回：創世記 2:18~24 動物、人間</p> <p>第4回：創世記 2:25~3:7 人間の不従順</p> <p>第5回：創世記 3:8~13 裁判</p> <p>第6回：創世記 3:14~24 処罰とその後</p> <p>第7回：アモス書 1:1~8 諸国民への託宣（ダマスコとガザ）</p> <p>第8回：アモス書 1:9~12 ティルスとエドム</p> <p>第9回：アモス書 1:13~2:3 アンモンとモアブ</p> <p>第10回：アモス書 2:4~16 ユダとイスラエル</p> <p>第11回：哀歌 1:1~2シオンの嘆き</p> <p>第12回：哀歌 1:3~5苦難と罪責</p> <p>第13回：哀歌 1:6~7孤立</p> <p>第14回：哀歌 1:8~11 シオンの叫び</p> <p>第15回：総括：</p>	
<p><準備学習等の指示> 各授業で課題となる聖書箇所事前に目を通しておくこと。</p>	
<p><テキスト> Biblia Hebraica Stuttgartensia (BHS)</p>	
<p><参考書>辞書:BDB、Koehler-Baumgartner、文法書:Gesenius、Waltke-O'Connor 参考書:ヴェルトヴァイン『旧約聖書の本文研究』、E.Tov, <i>Textual Criticism of the Hebrew Bible</i>、『左近淑著作集 III』、Field, <i>Origenis Hexapla</i> コンコルダンス:Lisowsky、Mandelkern、Hatch-Redpath (LXX)。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加度と定期試験の総合で評価する。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書原典講読Ⅱb	小友 聡
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 旧約聖書のヘブライ語原典を丁寧に読む。</p>	
<p><授業の概要> この学期は、ダニエル書のヘブライ語の部分を読む。</p>	
<p><履修条件> ヘブライ語の基本文法を理解できること。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 1章1-5節を読む</p> <p>第2回 1章6-10節を読む</p> <p>第3回 1章11-15節を読む</p> <p>第4回 1章16-21節を読む</p> <p>第5回 2章1-4節を読む</p> <p>第6回 8章1-5節を読む</p> <p>第7回 8章6-10節を読む</p> <p>第8回 8章11-15節を読む</p> <p>第9回 8章16-20節を読む</p> <p>第10回 8章21-27節を読む</p> <p>第11回 9章1-5節を読む</p> <p>第12回 9章6-10節を読む</p> <p>第13回 9章11-15節を読む</p> <p>第14回 9章16-20節を読む</p> <p>第15回 9章21-27節を読む</p>	
<p><準備学習等の指示> 毎回テキストをよく読み、準備すること。</p>	
<p><テキスト> Biblia Hebraica Stuttgartensia</p>	
<p><参考書> 辞書はBDBを用いるので、毎回持参すること。ウォンネベルガー『ヘブライ語聖書への手引き』も使用する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 演習に積極的に参加することを求める。毎回の発表と授業態度によって評価する。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書原典釈義Ⅱ a	本間 敏雄
前期・2単位	<登録条件> ヒブル語基礎文法修得者
<p><授業の到達目標及びテーマ> 創世記12、13、14章を釈義する。</p>	
<p><授業の概要> 構文論とマソラ本文の基礎知識を踏まえ、創世記12～14章のアブラ(ハ)ム物語を釈義する。ヒブル語本文の諸現象とマソラに留意し、テキスト理解を深めたい。後期課程「旧約聖書原典特殊研究a」と合同。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：創世記12：1-3 召命と約束 第2回：創世記12：4-6 応答 第3回：創世記12：7-9 土地の約束 第4回：創世記12：10-13 エジプト逃避 第5回：創世記12：14-17 サライ事件 第6回：創世記12：18-20 追放 第7回：創世記13：1-4 出エジプト 第8回：創世記13：5-8 土地争い 第9回：創世記13：9-13 ロトの選択 第10回：創世記13：14-18 約束の更新(1) 第11回：創世記14：1-7 世界大戦 第12回：創世記14：8-12 ソドム 第13回：創世記14：13-16 ロトの救出 第14回：創世記14：17-20 メルキゼデク 第15回：創世記14：21-24 ソドム王とアブラム</p>	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト> Biblia Hebraica Stuttgartensia (BHS)、レニングラード写本 (Codex Leningradensis) 写真版。 辞書は Gesenius 或いは B D B.</p>	
<p><参考書> 「ヒブル語入門」(改訂増補版 左近/本間)、「旧約聖書の本文研究」(E. ヴェルトヴァイン)、「旧約聖書釈義入門」(H.バルト/O.H シュテック)。写本・マソラ資料は必要に応じて配布する。他の釈義的文献は授業で指示する。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 課題の発表と討議、レポートの総合で評価する。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書原典釈義Ⅱb	本間 敏雄
後期・2単位	<登録条件> ヒブル語基礎文法修得者
<p><授業の到達目標及びテーマ> 創世記15、16、17章を釈義する。</p>	
<p><授業の概要> 構文論とマソラ本文の基礎知識を踏まえ、創世記15～17章のアブラハム物語を釈義する。ヒブル語本文の諸現象とマソラに留意し、テキスト理解を深めたい。後期課程「旧約聖書原典特殊研究b」と合同。</p>	
<履修条件>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：創世記15：1-4 約束の更新(2)</p> <p>第2回：創世記15：5-6 信仰と「義認」</p> <p>第3回：創世記15：7-11 契約祭儀</p> <p>第4回：創世記15：12-16 出エジプト預言</p> <p>第5回：創世記15：17-21 契約批准</p> <p>第6回：創世記16：1-4 サライとハガル</p> <p>第7回：創世記16：5-9 ハガルの逃亡</p> <p>第8回：創世記16：10-12 イシュマエル預言</p> <p>第9回：創世記16：13-16 ハガルの告白</p> <p>第10回：創世記17：1-3 約束の更新(3)</p> <p>第11回：創世記17：4-8 アブラムの改名</p> <p>第12回：創世記17：9-14 割礼の契約</p> <p>第13回：創世記17：15-18 サライの改名</p> <p>第14回：創世記17：19-22 イサク誕生予告</p> <p>第15回：創世記17：23-26 割礼の実施</p>	
<p><準備学習等の指示></p> <p>予習大切</p>	
<p><テキスト></p> <p>Biblia Hebraica Stuttgartensia (BHS)、レニングラード写本 (Codex Leningradensis) 写真版。 辞書は Gesenius 或いは B D B.</p>	
<p><参考書></p> <p>「ヒブル語入門」(改訂増補版 左近/本間)、「旧約聖書の本文研究」(E. ヴェルトヴァイン)、「旧約聖書釈義入門」(H.バルト/O.H シュテック)。写本・マソラ資料は必要に応じて配布する。他の釈義的文献は授業で指示する。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)></p> <p>課題の発表と討議、レポートの総合で評価する。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書学特研Ⅱ a	小友 聡
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 旧約神学、釈義、歴史に関する諸問題から、一つの主題を掲げて深く掘り下げる特殊研究のクラスである。</p>	
<p><授業の概要> 今学期はコヘレトの時間論を主題にし、コヘレトのテキストから時間論について論じ、黙示思想の時間論と比較する。</p>	
<履修条件>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 序論 2. 旧約聖書における時間：ポーマン『ヘブライ人とギリシャ人の思惟』をめぐって 3. ヘブライ語の時間概念 4. コヘレトにおける「時」：3章1-8節 5. コヘレトにおける「時」：3章9-17節 6. コヘレトにおける「時」：9章11-12節 etc. 7. R. Murphy, Ecclesiastes (WBC), 1992. 8. C.L. Seow, Ecclesiastes (AB), 1997. 9. 決定論と非決定論について 10. 黙示における「時」 11. 黙示における「時」：ダニエル書の場合 12. フォン・ラート『イスラエルの知恵』をめぐって 13. ヘンゲル『ユダヤ教とヘレニズム』をめぐって 14. コヘレトとダニエル：西村俊昭氏の論文をめぐって 15. 総合討議 	
<準備学習等の指示>	
<p><テキスト> Biblia Hebraica Stuttgartensia</p>	
<p><参考書> 参考文献はそのつど指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 割り当てられた担当内容と毎回の討論への参加度によって評価する。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書学特研Ⅱ b	小友 聡
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 旧約神学、釈義、歴史に関する諸問題から、一つの主題を掲げて深く掘り下げる特殊研究のクラスである。</p>	
<p><授業の概要> この学期は雅歌を取り上げ、そのテキストをじっくり読み、雅歌の意味と意義について考察する。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 序論 2. 雅歌の緒論的考察 3. 1章の解釈 4. 2章1-7節の解釈 5. 2章8-17節の解釈 6. 3章の解釈 7. 4章1-7節の解釈 8. 4章8-16節の解釈 9. 5章1-8節の解釈 10. 5章9-16節の解釈 11. 6章の解釈 12. 7章の解釈 13. 8章の解釈 14. 雅歌の構造と主題 15. 雅歌とはどういう書なのか 	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト> Biblia Hebraica Stuttgartensia</p>	
<p><参考書> そのつど指示するが、いくつかの注解書を各自選んで常に参照すること。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 割り当てられた担当内容と毎回の討論への参加度によって評価する。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書学演習Ⅱ a	大住 雄一
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 旧約聖書の諸主題、あるいは旧約聖書を読む場合の諸課題を共に学ぶ。ヒブル語を履修していない人、聖書神学（旧約聖書神学）専攻でない人にも開かれた演習である。</p>	
<p><授業の概要> 今回は、「歴史と言葉」と題して、旧約聖書の内容、ものの考え方、言語の特質をさぐる。ヒブル語や七十人訳のギリシア語の知識を前提とはしないが、説明をある程度理解する意志と準備学習は求められる。</p>	
<履修条件>	
<p><授業計画> 「歴史と言葉」</p> <p>I. 歴史は言葉である</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事実と物語 2. 物語るということ 3. 歴史の言葉の特質 <p>II. 言葉の歴史</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 歴史という言葉そのものにも歴史がある 5. 言葉になった事実の解釈 6. 聖書による聖書解釈 <p>III. 歴史は法になった</p> <ol style="list-style-type: none"> 7. 申命記の言葉 8. レビ記の言葉 9. 世界の解釈としての法 パウロの歴史的意味 <p>IV. ヒブル語の特質</p> <ol style="list-style-type: none"> 10. 名詞文 11. 平叙文の命令的機能 12. ギリシア語旧約聖書とは何か ギリシア語になって表すことの出来なくなったことと発見された新しい意味 <p>V. 解釈する言葉にも歴史がある</p> <ol style="list-style-type: none"> 13. 歴史のリアリティーはどう理解されるか 14. 礼拝のリアリティーの同質性 15. まとめ 	
<準備学習等の指示>	
<テキスト>	
<p><参考書> 毎回必要な参考文献を示すが、とくに並木浩一／荒井章三編『旧約聖書を学ぶ人のために』世界思想社、2012年および、エーリッヒ・アウエルバッハ（篠田一士・河村二郎訳『ミメシス 上・下』（1946）ちくま学芸文庫は一読を薦める。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 授業で割り当てられた課題の発表を含む授業参加度によって評価する。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
シリア語 a	佐藤 泉
前期・2単位	<登録条件> 通年で履修するのが望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 聖書の古代訳の一つであるペシッタ（シリア語訳）を読むことは、聖書の原典との比較によって、聖書解釈に大きな意味を持って来る。この授業ではペシッタを読むことを目標としている。</p>	
<p><授業の概要> ペシッタを読むために必要なシリア語の文法を学ぶ。</p>	
<p><履修条件> ヒブル語履修済みであることが望ましい。</p>	
<p><授業計画> 第1回：序 シリア語を学ぶ意義を話し、子音について（1）ヤコブ派の書体を学ぶ。 第2回：子音について（2） ネストリウス派とエストラングラの書体を学ぶ。 第3回：母音について ヤコブ派とネストリウス派の母音記号を学ぶ。 第4回：代名詞について 人称・指示・疑問・関係代名詞を学ぶ。 第5回：前置詞について 基本的なものをいくつか学ぶ。 第6回：名詞について（1） 基本的な名詞について、ヘブライ語との比較をしつつ、その特徴を学ぶ。 第7回：代名詞語尾について ヘブライ語と同様にシリア語も名詞等に代名詞語尾がつくことを学ぶ。 第8回：名詞について（2） 母音の移動を伴うものを学ぶ。 第9回：名詞について（3） 不規則変化するものを学ぶ。 第10回：規則動詞について（1） Peal 形の変化、特に完了を学ぶ。 第11回：規則動詞について（2） Peal 形の変化、特に未完了・命令・分詞・不定詞を学ぶ。 第12回：規則動詞について（3） Ethpeel 形の変化を学ぶ。 第13回：規則動詞について（4） Pael 形と Ethpael 形の変化を学ぶ。 第14回：規則動詞について（5） Aphel 形と Ettaphal 形の変化を学ぶ。 第15回：規則動詞について（6） 代名詞語尾のついた形の変化を学ぶ。</p>	
<p><準備学習等の指示> 授業中に指示のあった練習問題等について、できる範囲で準備すること。</p>	
<p><テキスト> Theodore H. Robinson, Paradigms and Exercises in Syriac Grammar, 3rd. ed., Oxford University Press, London, 1949.</p>	
<p><参考書> William Jennings, Lexicon to the Syriac New Testament, Oxford at the Clarendon Press, 1926.</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 予習・復習、積極的な授業参加の状況によって成績をつける。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
シリア語 b	佐藤 泉
後期・2単位	<登録条件> 通年で履修するのが望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 聖書の古代訳の一つであるペシッタ（シリア語訳）を読むことは、聖書の原典との比較によって、聖書解釈に大きな意味を持って来る。この授業ではペシッタを読むことを目標としている。</p>	
<p><授業の概要> シリア語の文法の学びを継続する。その後に講読に入るが、まず新約からマタイによる福音書の「山上の説教」、さらに旧約からエレミヤ書をペシッタで読む。（箇所は未定。授業中に指示する。）</p>	
<p><履修条件> ヒブル語履修済みであること並びにシリア語 a 履修済みであることが望ましい。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：不規則動詞について（1） Pê Nun 動詞の変化を学ぶ。 第2回：不規則動詞について（2） Lāmed 喉音動詞の変化を学ぶ。 第3回：不規則動詞について（3） Pê 'ālep 動詞の変化を学ぶ。 第4回：不規則動詞について（4） Pê Yōd 動詞の変化を学ぶ。 第5回：不規則動詞について（5） 二根字動詞の変化を学ぶ。 第6回：不規則動詞について（6） 二重'ayin 動詞の変化を学ぶ。 第7回：不規則動詞について（7） Lāmed Hê・Lāmed Yōd 動詞の変化を学ぶ。 第8回：「山上の説教」の講読（1） Jennings の辞書を引きながら、ペシッタを読むことに慣れる。 第9回：「山上の説教」の講読（2） 原典との比較をしつつ読むことを味わう。 第10回：「山上の説教」の講読（3） シリア語文法、特に不規則変化する名詞を確認しつつ読む。 第11回：「山上の説教」の講読（4） シリア語文法、特に動詞の変化を確認しつつ読む。 第12回：「山上の説教」の講読（5） シリア語が解釈に影響を与えている一例について話す。 第13回：エレミヤの講読（1） ネストリウス派の書体・母音記号で読むことに慣れる。 第14回：エレミヤの講読（2） シリア語文法を全体的に思い出しつつ読む。 第15回：エレミヤの講読（3） 原典や七十人訳と比較しつつ読むことを味わう。</p>	
<p><準備学習等の指示> 授業中に指示のあった練習問題等について、できる範囲で準備すること。</p>	
<p><テキスト> Theodore H. Robinson, Paradigms and Exercises in Syriac Grammar, 3rd. ed., Oxford University Press, London, 1949.</p>	
<p><参考書> William Jennings, Lexicon to the Syriac New Testament, Oxford at the Clarendon Press, 1926.</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 予習・復習、積極的な授業参加の状況によって成績をつける。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
修士論文指導演習 旧約神学 I	小友 聡
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 翌年度前期末に修士論文を提出しようとする前期課程1年次生の論文執筆の指導と情報交換を行う。</p>	
<p><授業の概要> 論文を執筆することのプロセスを解説し、テキスト研究ならびに二次文献の検索を行う。なお、この学期は教員1名で行う。</p>	
<p><履修条件> 2013年9月に旧約に関する修士論文提出予定者は参加すること。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 導入、論文執筆の意味</p> <p>第2回 課題の見出し方 律法関係</p> <p>第3回 課題の見出し方 預言者関係</p> <p>第4回 課題に見出し方 文学関係</p> <p>第5回 論文執筆の実際</p> <p>第6回 テキスト翻訳 律法関係</p> <p>第7回 テキスト翻訳 預言者関係</p> <p>第8回 テキスト翻訳 文学関係</p> <p>第9回 テキストの構造解明 律法関係</p> <p>第10回 テキストの構造解明 預言者関係</p> <p>第11回 テキストの構造解明 文学関係</p> <p>第12回 辞書、コンコルダンスの使い方</p> <p>第13回 二次文献の検出方法とその使い方</p> <p>第14回 暫定的な文献表の作成</p> <p>第15回 質疑応答</p>	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト> BHSのほか、論文執筆者別に指示する。</p>	
<p><参考書> 毎回必要な文献を指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 割り当てられた課題の発表50%、討論への貢献50%を総合して評価する。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
修士論文指導演習 旧約神学Ⅱ	大住 雄一 小友 聡
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 今年度前期末に修士論文を提出しようとする前期課程二年次生の論文執筆の指導と情報交換を行う。</p>	
<p><授業の概要> 論文の準備研究を各自が発表し、参加者がこれについて質問し、意見を述べる。 毎回の授業は2名の教員が共に責任を負うが、主にそれぞれ以下の分野を担当する。 大住雄一：律法、預言者関係 小友聡：黙示文学、知恵文学関係</p>	
<p><履修条件> 本年9月に旧約に関する修士論文提出予定者は参加すること</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：導入 論文執筆の手順 第2回：問題設定 律法関係 第3回：問題設定 預言者関係 第4回：問題設定 文学関係 第5回：研究史 律法関係 第6回：研究史 預言者関係 第7回：研究史 文学関係 第8回：主要テーゼ 律法関係 第9回：主要テーゼ 預言者関係 第10回：主要テーゼ 文学関係 第11回：論証過程 律法関係 第12回：論証過程 預言者関係 第13回：論証過程 文学関係 第14回：結論 第15回：最終的な質疑応答</p>	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト> 論文執筆者別に指示する。</p>	
<p><参考書> 毎回必要な文献を指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 割り当てられた課題の発表（50%）、討論への貢献（50%）を総合して評価する。</p>	

聖書神学専攻・新約聖書神学関係	
新約聖書学特研Ⅱ a	焼山 満里子
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 新約聖書、初期キリスト教における神学議論をテキスト、新約聖書、初期教父の著作を通して学ぶ。</p>	
<p><授業の概要> テキストを分担して講読し、そこで行われている議論を批判、検討する。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. ペイゲルス序論およびペイゲルス第一章「神の国は近づいた」 37-63頁 3. ペイゲルス第一章「神の国は近づいた」 64-89頁 4. ペイゲルス第一章において引用された新約聖書箇所を検討 5. ペイゲルス第二章「ローマ体制に逆らうキリスト教徒たち」 91-113頁 6. ペイゲルス第二章「ローマ体制に逆らうキリスト教徒たち」 114-136頁 7. ペイゲルス第二章で引用されていた初期教父の著作検討 8. ペイゲルス第三章「創世記の主題によるグノーシス的解釈の即興変奏曲」 137-152頁 9. ペイゲルス第三章「創世記の主題によるグノーシス的解釈の即興変奏曲」 153-174頁 10. ペイゲルス第三章で引用されていたグノーシス文献の検討 11. ペイゲルス第四章『『独身者の楽園』回復』 175-210頁 12. ペイゲルス第五章「楽園の政治学」 211-244頁 13. ペイゲルス第五章「楽園の政治学」 245-263頁 14. ローマの信徒への手紙におけるアダムの検討 15. ペイゲルス第六章「自然の本性」 265-310頁 <p>受講者の関心により予定は適宜調整する。</p>	
<p><準備学習等の指示> 各自、テキストを分担し講読を行う。各回発表担当者は議論の紹介をし、受講者と共に批判検討を行う。</p>	
<p><テキスト> ペイゲルス『アダムとエバと蛇』ヨルダン社、1993年。各自準備すること。</p>	
<p><参考書> 適宜紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）>発表の準備、議論への貢献等による授業参加、期末課題。</p>	

聖書神学専攻・新約聖書神学関係	
新約聖書学特研Ⅱ b	焼山 満里子
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 使徒パウロの伝道活動とパウロ教会について理解を深める。</p>	
<p><授業の概要> テキストを講読、批判検討しつつ、パウロの伝道活動とパウロ教会について学び、新約聖書パウロ書簡、初期キリスト教について学ぶ。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. ミークス序論 3. ミークス第一章 「パウロ的キリスト教の都市環境」 33-64頁 4. ミークス第一章 「パウロ的キリスト教の都市環境」 65-112頁 5. ミークス第二章 「パウロ教会の会員達の社会層」 144-168頁 6. ミークス第二章 「パウロ教会の会員達の社会層」 169-190頁 7. ミークス第三章 「教会の形成」 205-246頁 8. ミークス第三章 「教会の形成」 247-280頁 9. ミークスの方法論の検討 10. ミークス第四章 「統治」 301-334頁 11. ミークス第四章 「統治」 335-360頁 12. ミークス第五章 「祭儀」 370-413頁 13. ミークス第六章 「信仰形態と生活形態」 423-450頁 14. ミークス第六章 「信仰形態と生活形態」 451-471頁 15. 総括 <p>受講者の関心により予定は適宜調整する。</p>	
<p><準備学習等の指示> 各自、テキストを分担し講読を行う。各回発表担当者は議論の紹介をし、受講者と共に批判検討を行う。</p>	
<p><テキスト> ウェイン・ミークス『古代都市のキリスト教』加山久夫監訳 ヨルダン社、1989年。現在、絶版なので古本等の入手、図書館所蔵のものを使うことを勧める。</p>	
<p><参考書> 適宜紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 発表の準備、議論への貢献等による授業参加、期末課題。</p>	

聖書神学専攻・新約聖書神学関係	
新約聖書原典釈義 I a	小河 陽
前期・2単位	<登録条件>学期ごとに履修できるが、通年で受講することが望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>マルコ福音書の幾つかの段落をテキストとして取り上げ、ギリシア語原典釈義の方法を学ぶ。個々のテキストに関して、具体的な釈義上の問題を学び、神学内容を吟味するように訓練する。釈義から説教への展開の可能性も模索する。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>始めにマルコ福音書の研究史を概観し、釈義上の諸問題を把握した上で、幾つかのテキストを範例として釈義の方法論について学び、その後に福音書本文の釈義に移る。取り上げるテキストを選択的に限定して、その都度、問題点の把握と解釈の方向性を確実にすることに努める。参加者各々は分担箇所について発表の義務がある。</p>	
<p><履修条件></p> <p>ギリシア語の基礎知識を必要とするが、絶対条件とはしない。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回： マルコ福音書の研究史を概観して、現代の研究状況と釈義の諸問題を学ぶ。</p> <p>第2回： マルコ 1:21-28（汚れた霊に憑かれた男）で、範例的な釈義方法について学ぶ。</p> <p>第3回： マルコ 2:13-17（レビの召命）で、範例的なテキスト分析方法について学ぶ。</p> <p>第4回： マルコ 4：35-41（湖上の嵐を鎮める）で、範例的なテキスト分析の方法について学ぶ。</p> <p>第5回： マタイ 8：5-13 とルカ 7：1-10 の比較から、共観福音書の相違を学ぶ。</p> <p>第6回： マルコ 1:1-8（洗礼者ヨハネ）を中心に釈義を行う。</p> <p>第7回： マルコ 1：16-20（弟子召命）を中心に釈義を行う。</p> <p>第8回： マルコ 1:40-45（らい患者の癒し）を中心に釈義を行う。</p> <p>第9回： マルコ 2:23-28（安息日論争）中心に釈義を行う。</p> <p>第10回： マルコ 3:20-35（バルゼブル論争とイエスの家族）を中心に釈義を行う。</p> <p>第11回： マルコ 4:1-20（種まきの譬え）を中心に釈義を行う。</p> <p>第12回： マルコ 5:21-43（ヤイロの娘とイエスの服に触れる女）を中心に釈義を行う。</p> <p>第13回： マルコ 6:6b-13（弟子の宣教派遣）を中心に釈義を行う。</p> <p>第14回： マルコ 6:30-44（5000人の供食）を中心に釈義を行う。</p> <p>第15回： マルコ 7:1-23（昔の人の言い伝え）を中心に釈義を行う。</p>	
<p><準備学習等の指示></p> <p>クラスで取り上げる原典テキストを熟読し、代表的な註解書などの文献に目を通しておくこと。</p>	
<p><テキスト></p> <p>Nestle-Aland, Novum Testamentum Graece, 27th edition.</p>	
<p><参考書></p> <p>諸マルコ注解書、その他は授業の中でその都度教員が指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>クラスにおける釈義への積極的な参加度と学期末提出のレポートにおける習熟度の評価による。</p>	

聖書神学専攻・新約聖書神学関係	
新約聖書原典釈義 I b	小河 陽
後期・2単位	<p><登録条件> 学期ごとに履修できるが、通年で受講することが望ましい。</p>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 始めにルカ福音書の研究史を概観し、釈義上の諸問題を把握した上で、個々のテキストに即して、釈義上の諸問題を学び、神学内容を吟味するよう訓練する。釈義から説教への展開の可能性も模索する。</p>	
<p><授業の概要> 前期に引続き、ルカの福音書から取り上げるテキストを選択的に限定し、具体的な釈義を行うことで、問題点の把握と解釈の方向性を確実にする。最初に簡単に、ルカ福音書の研究史の概観と釈義上の諸問題を学ぶ。参加者各々は分担箇所について発表の義務がある。</p>	
<p><履修条件> 前期に引続き、ルカの福音書から取り上げるテキストを選択的に限定し、具体的な釈義を行うことで、問題点の把握と解釈の方向性を確実にする。最初に簡単に、ルカ福音書の研究史の概観と釈義上の諸問題を学ぶ。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回： 前期に於ける釈義の問題と方法の要点を整理・復習する。</p> <p>第2回： ルカ福音書の研究史概観（歴史家、神学者としての著者ルカの評価）</p> <p>第3回： ルカ福音書の研究史概観（ルカの教会とその環境について）</p> <p>第4回： ルカ6：1－6（ナザレの会堂での説教）を中心に釈義を行う。</p> <p>第5回： ルカ5：1－11（漁師を弟子にする）を中心に釈義を行う。</p> <p>第6回： ルカ6：20－49（平地の説教）を中心に釈義を行う。</p> <p>第7回： ルカ7：1－7（百人隊長の僕の癒し）を中心に釈義を行う。</p> <p>第8回： ルカ7：18－35（洗礼者ヨハネとイエス）を中心に釈義を行う。</p> <p>第9回： ルカ7：36－50（罪深い女の赦し）を中心に釈義を行う。</p> <p>第10回： ルカ8：40－56（ヤイロの娘と長血の女の癒し）を中心に釈義を行う。</p> <p>第11回： ルカ9：1－6、10：1－12（弟子たちの宣教派遣）を中心に釈義を行う。</p> <p>第12回： ルカ9：18－27（受難予告）を中心に釈義を行う。</p> <p>第13回： ルカ9：28－43a（山上の変貌）を中心に釈義を行う。</p> <p>第14回： 受難と復活についての釈義的諸問題を取り上げる。</p> <p>第15回： 釈義の方法と可能性について、総括的な反省と展望をする。</p>	
<p><準備学習等の指示> クラスで取り上げる原典テキストを熟読し、代表的な註解書などの文献に目を通しておくこと。</p>	
<p><テキスト> Nestle-Aland, Novum Testamentum Graece, 27th edition.</p>	
<p><参考書> ルカの注釈書、その他は授業の中で、その都度教員が指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> クラスにおける釈義への積極的な参加度と学期末に提出のレポートにおける習熟度の評価による。</p>	

聖書神学専攻・新約聖書神学関係	
新約聖書原典釈義Ⅱ a	永田 竹司
前期・2単位	<登録条件>原則として通年(a, b)で登録すること。但し、学期毎履修学生にも対応する。
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>新約聖書を歴史的批判的に釈義する方法論を学ぶことと、それによって得られるテキスト世界の意味と現代における意味展開とをどのように関係づけていくかという解釈学的営みを学ぶこと。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>新約聖書文書の中から一つの文書をテキストとし、聖書学の研究成果を参照しながら、テキストを詳細に分析研究することによって、その思想を考察することを第一義的課題とする。現代のキリスト教、また社会一般にとっていかなる意味を持つかも検討する。形式は学生による発表を中心とし、質疑応答および補足的指導を行う。今回は、「ローマ書1章から8章」をテキストとする。</p>	
<p><履修条件></p> <p>新約ギリシャ語初等文法、新約ギリシャ語テキスト読解の基礎知識が必須。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：聖書学の研究史から見たローマ書（講義）</p> <p>第2回：ローマ書の初めと終わり（1章と15章）。著者、宛先、執筆事情の考察</p> <p>第3回：ローマ書1:8-17の釈義、中心主題をめぐって。</p> <p>第4回：ローマ書1:18-3:20 神の義の啓示の問題をめぐって I その1 1:18-32 異邦人の罪とはなにか。</p> <p>第5回：ローマ書1:18-3:20 神の義の啓示の問題をめぐって II その2 2:1-3:8 ユダヤ人の罪とはなにか。民族宗教における境界線の問題の考察</p> <p>第6回：ローマ書1:18-3:20 神の義の啓示の問題をめぐって III その3 3:9-20 全人類が同様に罪人であるとの人間観の考察</p> <p>第7回：ローマ書3:21-5:11 恵みとしての義の主題をめぐって I その1 3:21-31 キリストの死と信仰の義の普遍性の考察</p> <p>第8回：ローマ書3:21-5:11 恵みとしての義の主題をめぐって II その2 4:1-25 アブラハムの事例と聖書証明の問題</p> <p>第9回：ローマ書3:21-5:11 恵みとしての義の主題をめぐって III その3 5:1-11 義とされた者の現在と将来の主題をめぐって</p> <p>第10回：ローマ書5:12-21 アダムとキリストのタイポロジーの考察</p> <p>第11回：ローマ書6:1-23 キリスト者の生における義認の意味についての考察</p> <p>第12回：ローマ書7:1-25 ユダヤ教対キリスト教の思想的構図 罪と律法の欺瞞 I その1 7:1-6 律法からの解放をめぐって</p> <p>第13回：ローマ書7:1-25 ユダヤ教対キリスト教の思想的構図 罪と律法の欺瞞 II その2 7:7-25 律法と罪と「わたし」：「わたし」のあり方の問題をめぐって。</p> <p>第14回：ローマ書8:1-39 霊によって生きるとは何か I その1 8:1-17 霊によって生きる対古い肉による生き方の対比をめぐって</p> <p>第15回：ローマ書8:1-39 霊によって生きるとは何か II その2 8:18-39 キリスト者の希望：未来的終末論との関係における考察。</p>	
<p><準備学習等の指示></p> <p>クラスで取り上げる箇所の新約ギリシア語テキストを十分読み、準備してクラスに出席すること。</p>	
<p><テキスト></p> <p>Nestle-Aland (27th ed.), <i>Novum Testamentum Graece</i> 他の版の新約ギリシア語聖書も可。(自分で揃える)</p>	
<p><参考書></p> <p>G・タイセン著、渡辺康磨訳『パウロ神学の心理学的側面』、1990年</p> <p>宮田光雄著、『権威と服従』、2003年</p> <p>E・ケーゼマン著、岩本修一訳『ローマ人への手紙』、1980年</p> <p>James D・G・Dunn, <i>Romans</i> (Word Biblical Commentary), 1988</p> <p>U・ヴィルケンス著 岩本修一・朴憲郁 訳『ローマ人への手紙』上(1984年)、中(1998年)、下巻</p> <p>その他は、クラスで適時紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)></p> <p>授業での発表と期末における研究小論文。クラスのための準備、積極的参加、発表および論文における批判力と想像力、論理および表現の明確さ、情報の確かさ等を重要な評価基準とする。</p>	

聖書神学専攻・新約聖書神学関係	
新約聖書原典釈義Ⅱb	永田 竹司
後期・2単位	<登録条件>原則として通年(a,b)で登録すること。但し、学期毎履修学生にも対応する。
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>新約聖書を歴史的批判的に釈義する方法論を学ぶことと、それによって得られるテキスト世界の意味と現代における意味展開とをどのように関係づけていくかという解釈学的営みを学ぶこと。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>新約聖書文書の中から一つの文書をテキストとし、聖書学の研究成果を参照しながら、テキストを詳細に分析研究することによって、その思想を考察することを第一義的課題とする。現代のキリスト教、また社会一般にとっていかなる意味を持つのかも検討する。形式は学生による発表を中心とし、質疑応答および補足的指導を行う。今回は、前期に続き、「ローマ書9章から16章」をテキストとする。</p>	
<p><履修条件></p> <p>新約ギリシャ語初等文法、新約ギリシャ語テキスト読解の基礎知識が必須。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：ローマ書9:1-11:36 人間の不信仰と神の真実をめぐる考察Ⅰ その1 9:1-29 神の自由とイスラエルのつまずきの問題</p> <p>第2回：ローマ書9:1-11:36 人間の不信仰と神の真実をめぐる考察Ⅱ その2 9:30-10:21 イスラエルのつまずき、選民意識の問題の考察</p> <p>第3回：ローマ書9:1-11:36 人間の不信仰と神の真実をめぐる考察Ⅲ その3 11:1-36 神の選びの思想の逆説的意味の考察</p> <p>第4回：ローマ書9:1-11:36 人間の不信仰と神の真実をめぐる考察Ⅳ その4 神の予定と救済論についての諸説の考察</p> <p>第5回：ローマ書12:1-13:14 キリスト者の生活についての勧告の考察Ⅰ その1 12:1-21 信仰共同体の形成と倫理</p> <p>第6回：ローマ書12:1-13:14 キリスト者の生活についての勧告の考察Ⅱ その2 13:1-14 国家と宗教の関係問題</p> <p>第7回：ローマ書12:1-13:14 キリスト者の生活についての勧告の考察Ⅲ その3 信教の自由と国家権力の問題についての歴史的考察</p> <p>第8回：ローマ書14:1-15:13 宗教的慣習の違いとその克服の問題Ⅰ その1 14:1-12 異邦人とユダヤ人との慣習の違いに関する問題</p> <p>第9回：ローマ書14:1-15:13 宗教的慣習の違いとその克服の問題Ⅱ その2 14:13-23 自由と愛の関係：自由を愛のゆえに行使しない自由の概念をめぐる</p> <p>第10回：ローマ書14:1-15:13 宗教的慣習の違いとその克服の問題Ⅲ その3 15:1-13 キリストを模範とする共同体形成の考察</p> <p>第11回：ローマ書15:14-33 ローマ書の歴史的目的をめぐる考察Ⅰ その1 パウロの伝道の拠点主義的特徴</p> <p>第12回：ローマ書15:14-33 ローマ書の歴史的目的をめぐる考察Ⅱ その2 キリスト教歴史における宣教の社会的構造転換の意味についての考察</p> <p>第13回：ローマ書16:1-27 ローマ教会への個人的挨拶をめぐるⅠ その1 ローマ教会の構成員の特徴と歴史的背景の考察</p> <p>第14回：ローマ書16:1-27 ローマ教会への個人的挨拶をめぐるⅡ その2 初期キリスト教における女性の位置の問題：「ユニア」をめぐる</p> <p>第15回：ローマ書の現代的意味についての考察（総括）</p>	
<p><準備学習等の指示></p> <p>クラスで取り上げる箇所ギリシア語テキストを十分読み、準備してクラスに出席すること。</p>	
<p><テキスト></p> <p>Nestle-Aland (27th ed.), <i>Novum Testamentum Graece</i> 他の版のギリシア語新約聖書も可。(自分で揃える)</p>	
<p><参考書></p> <p>G・タイセン著、渡辺康鷹訳『パウロ神学の心理学的側面』、1990年 宮田光雄著、『権威と服従』、2003年 E・ケーゼマン著、岩本修一訳『ローマ人への手紙』、1980年 James D・G・Dunn, <i>Romans</i> (Word Biblical Commentary), 1988 U・ヴィルケンス著 岩本修一・朴憲郁 訳『ローマ人への手紙』上(1984年)、中(1998年)、下巻 その他は、クラスで適時紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)></p> <p>授業での発表と期末における研究小論文。クラスのための準備、積極的参加、発表および論文における批判力と想像力、論理および表現の明確さ、情報の確かさ等を重要な評価基準とする。</p>	

聖書神学専攻・新約聖書神学関係	
修士論文指導演習 新約神学 I	中野 実 焼山 満里子
後期・2単位	<登録条件>新約神学で修論を書く予定の学生
<p><授業の到達目標及びテーマ> 来年度に修士論文を提出する予定の、新約聖書神学専攻の大学院一年生のための演習。テーマの選定、論文を書くための技術を身につける事を目的とする。</p>	
<p><授業の概要> 論文を書くとはどういう事かを学び、その課題に取り組む準備をするためのクラス。毎回学生の発表などを中心にすすめていく。毎回、2名の担当者が協力して責任を負うけれども、それぞれの専門分野、関心事に基づきながら、共同で指導を進める。中野 実（おもに福音書研究など）、焼山満里子（おもに書簡研究など）。</p>	
<p><履修条件> 2013年9月に修論を提出予定の学生。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> ① オリエンテーション ② 論文を書くとは？ ③ それぞれの課題、問題探し ④ その課題、問題に関連するテキスト探し ⑤ 課題テキストについて深く学ぶ ⑥ テーマの選定、見直し、決定 ⑦ 研究のための方法および道具について ⑧ 資料、先行研究さがし ⑨ 先行研究の学び 参考文献表の作成 ⑩ 先行研究の学びとそこからの展開 ⑪ 問題設定、テーゼの発見へ向かって ⑫ 問題設定、テーゼの吟味 ⑬ 題名、目次作成へ向かって ⑭ 議論の組み立てへ向かって ⑮ まとめ 	
<p><準備学習等の指示> 論文はモノログではないので、教師、学生との対話を大切にすること。</p>	
<p><テキスト> 担当者が必要に応じて、指示する。</p>	
<p><参考書> 担当者が必要に応じて、指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> クラスへの出席、課題への積極的参加によって、総合的に評価する。</p>	

聖書神学専攻・新約聖書神学関係	
修士論文指導演習 新約神学Ⅱ	焼山 満里子
前期・2単位	<登録条件>新約聖書神学専攻で修士論文を提出する条件を満たしていること。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 修士論文提出に向けて、執筆のための演習を行う。</p>	
<p><授業の概要> 各自、修士論文の執筆状況を発表し、議論し、執筆に役立てる。</p>	
<p><履修条件> 2012年9月に新約聖書神学専攻で修士論文を提出する予定の学生必修。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 論文執筆の手順 2. 論文の文献、概要について発表 3. テーゼの発表、検討 4. テーゼに向けた議論を組み立て発表、検討 5. 研究史 一回目 6. テーゼに向けた議論を発表 一回目 7. 研究史 二回目 8. テーゼに向けた議論を発表 二回目 9. 論文の題、目次、序論、議論、結論の大枠を発表、検討 10. テーゼに向けた議論を発表 三回目 11. テーゼに向けた議論を発表 四回目 12. 結論を発表、検討 13. 序論の発表、検討 14. 文献表の書式の確認 15. 総括 	
<p><準備学習等の指示>各自、授業計画に従って発表の準備をすること。</p>	
<p><テキスト> 適宜紹介する。</p>	
<p><参考書>適宜紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）>授業参加、各課題への取り組み姿勢、達成度によって評価する。</p>	

組織神学専攻・組織神学関係	
組織神学特講Ⅱ a	近藤 勝彦
前期・2単位	<登録条件> 博士課程前期課程在学者か継続教育希望者
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>組織神学専攻の科目で、組織神学特講Ⅱ b と共に通年で4単位になる。本学の組織神学の伝統を踏まえながら、特に「世界史と救済史の関係」について神学史の経過を踏まえながら、新しい神学的資産を加える基礎とする。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>「世界史と救済史の関係」は神学全般に関わる問題である。中でも教義学的な啓示、受肉における神性認識に関係し、摂理（統治）論とのかかわりを深くする。神の到来による歴史の認識を明らかにしていきたい。</p>	
<p><履修条件></p> <p>参加意識や問題意識をもって、意欲的に参加すること。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回： 神と、歴史としての世界とのかかわり</p> <p>第2回： この問題におけるカール・レーヴィットの主張</p> <p>第3回： この問題におけるミルチア・エリアーデの主張</p> <p>第4回： トマス・トランスの理神論的二元論克服の提案の意味</p> <p>第5回： 1920年代の「反歴史主義」の神学者たち（カール・バルト）</p> <p>第6回： 同上（ルドルフ・ブルトマン）</p> <p>第7回： 同上（パウル・ティリッヒ）</p> <p>第8回： ヴォルフハルト・パネンベルクにおける「歴史の神」の問題</p> <p>第9回： 歴史的啓示の認識</p> <p>第10回： 終末論的中間時と歴史の解釈</p> <p>第11回： 摂理（統治）論としての歴史の神学</p> <p>第12回： 同上一伝道史と世界史</p> <p>第13回： 同上一歴史の曖昧性</p> <p>第14回： 同上一歴史の試練（迫害・災害・破局）の意味</p> <p>第15回： 神の国の到来としての終末論</p>	
<p><準備学習等の指示></p> <p>シラバスの項目中のいずれかを文献に当たって読んでみる。</p>	
<p><テキスト></p> <p>授業の中で必要に応じて指示する。</p>	
<p><参考書></p> <p>カール・レーヴィット『世界史と救済史』、ミルチア・エリアーデ『永遠回帰の神話』、近藤勝彦『啓示と三位一体』、『二十世紀の主要な神学者たち』など</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>積極的に事柄への関心をもって、授業に出席すること。成績評価は授業出席とレポートによって判断する。各自神学者を選んで、そのテキストと取り組みながら、主題について論じること。</p>	

組織神学専攻・組織神学関係	
組織神学特講Ⅱb	近藤 勝彦
後期・2単位	<登録条件> 博士課程前期課程在学者か継続教育希望者
<p><授業の到達目標及びテーマ> 前期の組織神学特講Ⅱaを受けて、併せて通年4単位となる。キリスト教神学の中心点でもあるイエス・キリストの贖いの御業について学ぶ</p>	
<p><授業の概要> 主要な贖罪論の展開を取り上げ、そこから学びつつ、この問題の新しい展開を探っていきたい。</p>	
<p><履修条件> 問題意識をもって、意欲的に参加して欲しい。</p>	
<p><授業計画> 第1回：最近の神学における贖罪論の希薄化、1960年代以降 第2回：最近の神学における贖罪論の希薄化、ユルゲン・モルトマン 第3回：マルティン・ルターの贖罪論、贖罪論史の中のルター 第4回：マルティン・ルターの贖罪論、日本におけるルターの評価 第5回：ジャン・カルヴァンの贖罪論、『キリスト教綱要』において 第6回：ジャン・カルヴァンの贖罪論、総合的贖罪論 第7回：P.T. フォーサイスの贖罪論、三つよりの糸の意味 第8回：P.T. フォーサイスの贖罪論、評価と問題 第9回：植村正久の贖罪論の試み、初期の植村において 第10回：植村正久の贖罪論の試み、晩年の植村において 第11回：カール・バルトの贖罪論、和解論の構造と贖罪論 第12回：カール・バルトの贖罪論、その特徴 第13回：贖罪論と三位一体 第14回：十字架と神の国 第15回：レポートの提出</p>	
<p><準備学習等の指示> シラバスの項目中のいずれかを文献に当たって読んでみる。</p>	
<p><テキスト> 扱うそれぞれの神学者の著作、カルヴァン『キリスト教綱要』、ルター『ガラテヤ大講解』など。</p>	
<p><参考書> アウレン『勝利者キリスト』、近藤勝彦「植村正久の贖罪理解とその今日的意義」(『神学』68号、2006年)など</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 授業に勤勉に出席すること。成績評価は授業出席とレポートの内容によって判断する。文献の内容をよく把握することが重要であるが、さらにそれに対する自分自身の評価や判断を示さなければならない。</p>	

組織神学専攻・組織神学関係	
組織神学演習Ⅱ a	神代 真砂実
前期・2単位	<登録条件> 組織神学演習Ⅱ b と通年で履修（登録）すること
<p><授業の到達目標及びテーマ> 組織神学関係の重要著作を精読することを通して、対象となる思想家の神学思想の世界を理解し、さらには、それを手がかりにして、神学的思考能力を養うことを目的とする。</p>	
<p><授業の概要> 二〇世紀最大の神学者の一人、カール・バルトの『教会教義学』の、演習形式による精読を通して、その思想の内容と特色を理解する。今回は創造論中の人間論を扱う。</p>	
<p><履修条件> (なし)</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 オリエンテーション、およびバルトの思想の概要の紹介</p> <p>第2回 教義学の問題としての人間①宇宙の中での人間（その1）：テキスト3～19頁</p> <p>第3回 同（その2）：テキスト19～35頁</p> <p>第4回 同②神学的認識の対象としての人間（その1）：テキスト36～51頁</p> <p>第5回 同（その2）：テキスト51～61頁</p> <p>第6回 同（その3）：テキスト62～77頁</p> <p>第7回 同（その4）：テキスト77～96頁</p> <p>第8回 同（その5）：テキスト96～114頁</p> <p>第9回 教義学の問題としての人間（第43節）のまとめ</p> <p>第10回 神に造られたものとしての人間①イエス、神のために生きる人間（その1）： テキスト115～126頁</p> <p>第11回 同（その2）：テキスト126～150頁</p> <p>第12回 同②人間的なものの現象（その1）：テキスト151～167頁</p> <p>第13回 同（その2）：テキスト167～187頁</p> <p>第14回 同（その3）：テキスト187～200頁</p> <p>第15回 同（その4）：テキスト200～224頁</p>	
<p><準備学習等の指示> 必ず事前にテキストに目を通し、質問やコメントを用意してくること。</p>	
<p><テキスト> カール・バルト、『教会教義学・創造論Ⅱ／1』（菅岡吉・吉永正義訳、新教出版社〔オンデマンド〕）。</p>	
<p><参考書> 授業の中で、必要に応じて指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 発表と授業への参加度、期末のレポートによる。</p>	

組織神学専攻・組織神学関係	
組織神学演習Ⅱ b	神代 真砂実
後期・2単位	<登録条件> 組織神学演習Ⅱ a と通年で履修（登録）すること
<p><授業の到達目標及びテーマ> 組織神学関係の重要著作を精読することを通して、対象となる思想家の神学思想の世界を理解し、さらには、それを手がかりにして、神学的思考能力を養うことを目的とする。</p>	
<p><授業の概要> 二〇世紀最大の神学者の一人、カール・バルトの『教会教義学』の、演習形式による精読を通して、その思想の内容と特色を理解する。前期に引き続き、創造論中の人間論を扱う。</p>	
<p><履修条件> (なし)</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 神に造られたものとしての人間②人間的なものの現象（その5）： テキスト 224～251 頁</p> <p>第3回 同（その6）：テキスト 251～272 頁</p> <p>第4回 同③実在の人間（その1）：テキスト 273～294 頁</p> <p>第5回 同（その2）：テキスト 294～304 頁</p> <p>第6回 同（その3）：テキスト 304～314 頁</p> <p>第7回 同（その4）：テキスト 314～324 頁</p> <p>第8回 同（その5）：テキスト 324～338 頁</p> <p>第9回 同（その6）：テキスト 339～358 頁</p> <p>第10回 同（その7）：テキスト 358～369 頁</p> <p>第11回 同（その8）：テキスト 369～384 頁</p> <p>第12回 同（その9）：テキスト 384～395 頁</p> <p>第13回 同（その10）：テキスト 395～407 頁</p> <p>第14回 同（その11）：テキスト 407～415 頁</p> <p>第15回 神に造られたものとしての人間（第44節）のまとめ</p>	
<p><準備学習等の指示> 必ず事前にテキストに目を通し、質問やコメントを用意してくること。</p>	
<p><テキスト> カール・バルト、『教会教義学・創造論Ⅱ／1』（菅岡吉・吉永正義訳、新教出版社〔オンデマンド〕）。</p>	
<p><参考書> 授業の中で、必要に応じて指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 発表と授業への参加度、期末のレポートによる。</p>	

組織神学専攻・組織神学関係	
組織神学演習Ⅲ a	芳賀 力
前期・2単位	<登録条件> 通年 (a, b) の登録が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 教義学の古典的なテキストを丁寧に読みながら、要旨の正確な把握と相互の討論を通して主題の理解を深め、教義学的な思索力を養う。</p>	
<p><授業の概要> カール・バルトの創造論を取り上げる。創世記1章と2章を徹底した聖書釈義を踏まえながら、さらに神学的に解釈し黙想する方法の実例に触れる。併せて、現代神学における三位一体的創造論の基本的な筋道を探る。</p>	
<p><履修条件> 博士課程前期に在籍していること。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：現代神学における創造論の問題状況とバルトの創造論の位置づけについて、序論的な話をする。</p> <p>第2回：『創造論 I / 1 創造の業 上』の1-30頁の内容を検討する。</p> <p>第3回：上記テキストの30-58頁の内容を検討する。</p> <p>第4回：テキストの59-87頁の内容を検討する。</p> <p>第5回：テキストの87-117頁の内容を検討する。</p> <p>第6回：テキストの117-146頁の内容を検討する。</p> <p>第7回：テキストの147-178頁の内容を検討する。</p> <p>第8回：テキストの178-203頁の内容を検討する。</p> <p>第9回：テキストの203-232頁の内容を検討する。</p> <p>第10回：テキストの232-260頁の内容を検討する。</p> <p>第11回：テキストの260-289頁の内容を検討する。</p> <p>第12回：テキストの290-321頁の内容を検討する。</p> <p>第13回：テキストの321-349頁の内容を検討する。</p> <p>第14回：テキストの349-377頁の内容を検討する。</p> <p>第15回：これまでの議論を振り返り、総括する。</p>	
<p><準備学習等の指示> 自分の担当以外の場合も、積極的にテキストを直接よく読むこと。</p>	
<p><テキスト> カール・バルト『創造論 I / 1 創造の業 上』（吉永正義訳、新教出版社、一九八四年） 学生各自で購入する。</p>	
<p><参考書> 拙論「創造と三位一体」『神学』73号</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 出席を重視する。授業への積極的な参与の姿勢を評価する。総括として各自レポートを作成する。</p>	

組織神学専攻・組織神学関係	
組織神学演習Ⅲ b	芳賀 力
後期・2単位	<登録条件> 通年 (a, b) の登録が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 教義学の古典的なテキストを丁寧に読みながら、要旨の正確な把握と相互の討論を通して主題の理解を深め、教義学的な思索力を養う。</p>	
<p><授業の概要> カール・バルトの創造論を取り上げる。創世記1章と2章を徹底した聖書釈義を踏まえながら、さらに神学的に解釈し黙想する方法の実例に触れる。併せて、現代神学における三位一体的創造論の基本的な筋道を探る。</p>	
<p><履修条件> 博士課程前期に在籍していること。</p>	
<p><授業の概要> 第1回：『創造論Ⅰ/1 創造の業 上』の377-406頁の内容を検討する。</p> <p>第2回：上記テキストの407-437頁の内容を検討する。</p> <p>第3回：テキストの437-466頁の内容を検討する。</p> <p>第4回：テキストの466-495頁の内容を検討する。</p> <p>第5回：テキストの495-522頁の内容を検討する。</p> <p>第6回：テキストの522-551頁の内容を検討する。</p> <p>第7回：テキストの551-580頁の内容を検討する。</p> <p>第8回：テキストの580-607頁の内容を検討する。</p> <p>第9回：『創造論Ⅰ/2 創造の業 下』の3-31頁の内容を検討する。</p> <p>第10回：上記テキストの32-67頁の内容を検討する。</p> <p>第11回：テキストの67-97頁の内容を検討する。</p> <p>第12回：テキストの97-125頁の内容を検討する。</p> <p>第13回：テキストの126-155頁の内容を検討する。</p> <p>第14回：テキストの155-172頁の内容を検討する。</p> <p>第15回：これまでの議論を振り返り、総括する。</p>	
<p><準備学習等の指示> 自分の担当以外の場合も、積極的にテキストを直接よく読むこと。</p>	
<p><テキスト> カール・バルト『創造論Ⅰ/2 創造の業 下』（吉永正義訳、新教出版社、一九八五年） 学生各自で購入する。</p>	
<p><参考書> 拙論「創造と三位一体」『神学』73号</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 出席を重視する。授業への積極的な参与の姿勢を評価する。総括として各自レポートを作成する。</p>	

組織神学専攻・組織神学関係	
信条学	芳賀 力
前期・2単位	<登録条件> 専攻に関係なく登録可。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 歴史的教会の生み出した諸信条の特色を学ぶ。また教義学の項目に沿って、信条の神学を学ぶ。</p>	
<p><授業の概要> 最初は古代教会の基本信条を取り上げ、次いで宗教改革期の代表的な信条を顧みる。なお授業の後半でロールスのテキストの各項目を一つずつ読んでいく。</p>	
<p><履修条件> 大学院博士課程前期・後期に在籍している者は誰でも履修できる。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：信条・信仰告白とはキリスト者にとって何を意味するかを考察する。</p> <p>第2回：使徒信条を学ぶ。またロールスのテキスト「啓示、神の言葉、伝統」の項目を読む。</p> <p>第3回：ニケア・コンスタンティノポリス信条を学ぶ。またロールスのテキスト「神の本性と三位一体論」の項目を読む。</p> <p>第4回：アタナシオス信条を学ぶ。またロールスのテキスト「創造と摂理」の項目を読む。</p> <p>第5回：カルケドン信条を学ぶ。またロールスのテキスト「人間と罪」の項目を読む。</p> <p>第6回：ルター大・小教理問答を学ぶ。またロールスのテキスト「恵みの契約と和解」の項目を読む。</p> <p>第7回：アウグスブルク信仰告白を学ぶ。またロールスのテキスト「キリスト論とカルヴァン主義的な外部」の項目を読む。</p> <p>第8回：ジュネーヴ教会信仰問答を学ぶ。またロールスのテキスト「義認と信仰」の項目を読む。</p> <p>第9回：フランス信仰告白を学ぶ。またロールスのテキスト「聖化と悔改め」の項目を読む。</p> <p>第10回：第一・第二スイス信仰告白を学ぶ。またロールスのテキスト「選びと棄却」の項目を読む。</p> <p>第11回：スコットランド信仰告白を学ぶ。またロールスのテキスト「教会とそのしるし」の項目を読む。</p> <p>第12回：ハイデルベルク信仰問答を学ぶ。またロールスのテキスト「御言葉と聖礼典」の項目を読む。</p> <p>第13回：ドルト信仰規準を学ぶ。またロールスのテキスト「神の言葉の二様態」の項目を読む。</p> <p>第14回：ウェストミンスター信仰告白を学ぶ。またロールスのテキスト「洗礼」の項目を読む。</p> <p>第15回：バルメン宣言を学ぶ。またロールスのテキスト「聖餐」の項目を読む。</p>	
<p><準備学習等の指示> 前もってその時の信条テキストに目を通しておくとよい。</p>	
<p><テキスト> 『信条集 前後篇』新教出版社、1994年。各自購入すること。</p>	
<p><参考書> J・ロールス『改革教会信仰告白の神学』一麦出版社、2009年。研究室にて割引価格で頒布する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 出席と授業での発表、レポートを総合的に評価する。</p>	

組織神学専攻・組織神学関係	
修士論文指導演習 組織神学 I	近藤 勝彦 芳賀 力
後期・2単位	<登録条件> 狭義の組織神学ならびに実践神学で修士論文を書こうとする者
<p><授業の到達目標及びテーマ> 各自の論文を準備しながら、神学論文の読み方を学び、2年次の修士論文演習に繋げる。途中でそれぞれの論文のテーマや文献の発表をする。</p>	
<p><授業の概要> 前半は『フォーサイス神学概論』をテキストにして、フォーサイスの神学的諸問題を発表し、後半に各自のは票形式で、それぞれの論文の主題を扱い、修士論文の執筆に備える。</p>	
<p><履修条件> 組織神学と実践神学で論文を書く者には必修。</p>	
<p><授業計画> 第1回 各自の論文の主題、主要文献の発表、発表担当のアレンジ 第2回 「父の回想」の発表 第3回 「道徳性・贖罪・イエスの死」の発表 第4回 「救贖的なものとしての現実的なもの」の発表 第5回 「フォーサイスの教会論」の発表 第6回 「フォーサイス神学における悲劇」の発表 第7回 「非体系的体系家としての P.T.フォーサイス」の発表 第8回 「P.T. フォーサイスは政治的神学者か」の発表 第9回 「会衆派牧師としての P.T. フォーサイス」の発表 第10回 「フォーサイスは本当にバルト以前のバルト主義者であったか」の発表 第11回 「フォーサイス神学における福音主義的靈性」の発表 第12回 各自の発表、3名 第13回 各自の発表、次の3名 第14回 各自の発表、さらに次の3名 第15回 総括</p>	
<p><準備学習等の指示> 『フォーサイス神学概論』を読むことと、各自の論文主題に取り組むこと</p>	
<p><テキスト> 『フォーサイス神学概論』（大宮溥編、教文館、2011年）</p>	
<p><参考書> 各自の論文の文献</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 毎回の発表と出席状況、討論の参加度などによって評価する。</p>	

組織神学専攻・組織神学関係	
修士論文指導演習 組織神学Ⅱ	近藤 勝彦 芳賀 力
前期・2単位	<登録条件> 狭義の組織神学ならびに実践神学で修士論文を書こうとする者
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>各自論文のテーマを決めて取り組み、その都度の研究段階で発表をしながら修士論文の完成を目指す。論文の書き方の技術的な指導も行う。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>各自の論文のための研究を途中段階で発表し、問題点、改善点などを指摘する。</p>	
<p><履修条件></p> <p>組織神学、実践神学で修士論文を提出する者は必修。他の人の論文経過発表を聞くときにも、発表に対する質疑や討論に参加すること。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第一回： 論文を書くに際しての概略的な指導、ならびに各自の発表の順序などを決める。 第二回： ①と②の発表（1度目）、テーマならびに文献 第三回： ③と④の発表（1度目） 第四回： ⑤と⑥の発表（1度目） 第五回： ①と②の発表（2度目）、論文の構成、目次も発表する 第六回： ③と④の発表（2度目） 第七回： ⑤と⑥の発表（2度目） 第八回： ①と②の発表（3度目） 第九回： ③と④の発表（3度目） 第十回： ⑤と⑥の発表（3度目） 第十一回： ①と②の発表（4度目） 第十二回： ③と④の発表（4度目） 第十三回： ⑤と⑥の発表（4度目） 第十四回： 論文完成を目指して注などの注意 第十五回： 論文提出</p>	
<p><準備学習等の指示></p> <p>それぞれの指導教授と相談の上、自己の論文のための研究を進めておくこと。</p>	
<p><テキスト></p> <p>それぞれの主題に必要な文献。</p>	
<p><参考書></p> <p>第一次資料とともに、それぞれに必要な第二次参考文献を選定すること。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>出席と授業参加の積極的姿勢によって評価する。論文が提出されない場合、成績は出せない。</p>	

組織神学専攻・歴史神学関係	
教理史演習Ⅱ a	棚村 重行
前期・2単位	<登録条件> 通年の履修が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 「二つの福音は波濤を越えて―国際教会関係史の視点から」。英米教会史と日本プロテスタント教会史との結び目にあたる「日本基督公会」運動と対抗運動の経過と教会史的意義を論じる。</p>	
<p><授業の概要> 前期では、先ず「公会」運動をめぐる研究史の批判を行う。その上で「国際教会関係史」の観点を確立し、「公会」運動と対抗運動の輸出元の英米教会側の背景理解のために、講義と史料分析を行う。</p>	
<p><履修条件> 現代・近代教会史や神学思想史の知識など組織神学（組織、歴史、実践）、あるいはアジア伝道論などのある程度の関心と素養が必要である。</p>	
<p><授業計画> 第1回：コース紹介。導入講義：「公会」運動研究史の概観と批判（棚村・テキスト、第一部） 第2回：講義（一）：「国際教会関係史」の観点とは？（テキスト、第二部序章） 第3回：講義（二）：アメリカ宗教史における改革派―ピューリタン―福音伝道主義的伝統の意義 第4回：講義（三）：十七～十八世紀北米における改革派―ピューリタン系諸教会形成とその展開 第5回：史料分析（一）：近代世界におけるアルミニウス主義神学の諸類型 第6回：講義（四）：アルミニウス主義神学の三類型（古典型、穏健型、急進型）（テキスト、第一章） 第7回：史料分析（二）：十九世紀米国における新派カルヴァン主義神学（E. A. パーク） 第8回：講義（五）：E. A. パークの「ニューイングランド神学」の特質（テキスト、第二章） 第9回：史料分析（三）：十九世紀米国における旧派カルヴァン主義神学（C. ホッジ） 第10回：講義（六）：C. ホッジの旧派神学の特質（テキスト、第三章） 第11回：史料分析（四）：十九世紀エキュメニズムとしての「福音同盟会」の成立と展開 第12回：講義（七）：福音同盟会の教会史的 성격（テキスト、第四章） 第13回：史料分析（五）：「福音同盟会」の理念と「日本基督横浜公会」の成立 第14回：講義（八）：ロンドンから横浜へ―福音同盟会の「公会」運動への影響（テキスト、第五章） 第15回：総合討論：前期の学びのまとめと、国際教会関係史の視点の意義。FD実施。</p>	
<p><準備学習等の指示> テキストの予習と、史料分析の復習が大切である。</p>	
<p><テキスト> 棚村重行『二つの福音は波濤を越えて―十九世紀英米文明世界と「日本基督公会」運動および対抗運動』（教文館、2009年刊行。史料分析用テキストは各授業で配布する。</p>	
<p><参考書> S. E. オールストローム『アメリカ神学思想史入門』（教文館、1990）。他は各授業で指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 1. 授業における積極的な討論や質疑応答への参加を重視する。また期末には、以下の要件を満たす研究レポートを作成し提出すること。 2. 前期で扱ったテーマを一つ取り上げ、それに関連した重要な第一次史料を批判的に分析し自分の解釈にもとづくレポートを作成せよ。分量は400字詰め原稿用紙に換算して20―25枚以内。</p>	

組織神学専攻・歴史神学関係	
教理史演習Ⅱb	棚村 重行
後期・2単位	<登録条件> 前期に同じ。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 「二つの福音は波濤を越えて―国際教会関係史の視点から」。英米教会史と日本プロテスタント教会史との結び目にあたる「日本基督公会」運動と対抗運動の経過と教会史的意義を論じる。</p>	
<p><授業の概要> 後期では、先ず「公会」運動と対抗運動の歴史的展開過程を概観する。次いで初期の横浜公会や「公会」運動の神学問題、またアメリカン・ボードや阪神公会側の動向を、講義と史料分析を行う。</p>	
<p><履修条件> 前期に同じ。</p>	
<p><授業計画> 第1回：コースの紹介。導入講義（一）：最近の宣教師文書を使用した研究の評価と問題点。 第2回： 導入講義（二）：明治維新期の「国家と宗教」の動向（棚村・テキスト、第一部序章） 第3回： 史料分析（一）：合衆国長老派、改革派在日ミッション関係の重要史料の分析 第4回： 史料分析（二）：アメリカン・ボード在日ミッション関係の重要史料の分析 第5回： 講義（一）：日本基督公会から日本基督一致教会へ（テキスト、第三部第六章） 第6回： 史料分析（三）：初期横浜公会の史料分析（1） 第7回： 史料分析（四）：初期横浜公会の史料分析（2） 第8回： 講義（二）：横浜公会設立期の二規則（公会定規、公会規則）の分析（テキスト、第七章） 第9回： 史料分析（五）：京浜二公会の規則史料分析 第10回： 史料分析（六）：阪神二公会の規則史料分析 第11回： 講義（三）：四公会諸規則における新派カルヴァン主義神学の影響（テキスト、第八章） 第12回： 史料分析（七）：アメリカン・ボード在日ミッション関係の重要史料分析（1） 第13回： 史料分析（八）：アメリカン・ボード在日ミッション関係の重要史料分析（2） 第14回： 講義（四）：「公会」運動とアメリカン・ボード在日ミッションの動向（テキスト、第九章） 第15回： 総合討論：総括と研究史を批判する（テキスト、第三部第十章）。FD実施。</p>	
<p><準備学習等の指示> 前期に同じ。</p>	
<p><テキスト> 棚村重行『二つの福音は波濤を越えて―十九世紀英米文明世界と「日本基督公会」運動および対抗運動』（教文館、2009年刊行。史料分析用テキストは、各授業で配布する。</p>	
<p><参考書> S. E. オールストローム『アメリカ神学思想史入門』（教文館、1990）。他は各授業で指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 1. 授業における積極的な討論や質疑応答への参加を重視する。また期末には、以下の要件を満たす研究レポートを作成し提出すること。 2. 前期で扱ったテーマを一つ取り上げ、それに関連した重要な第一次史料を批判的に分析し自分の解釈にもとづくレポートを作成せよ。分量は400字詰め原稿用紙に換算して、20―25枚以内。</p>	

組織神学専攻・歴史神学関係	
教会史特講Ⅱ a	棚村 重行
前期・2単位	<登録条件> 通年の履修が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 「キリスト教霊的生活史」。「宗教としてのキリスト教」を構成する宗教経験、教理神学、実践、共同体などの諸側面を総合して「霊的生活」と呼び、教会史におけるその発展を歴史的に考察する。</p>	
<p><授業の概要> 前期では、聖書成立時代から中世末期までの霊的神学者の a)「三一神の像、似像」としての人間の創造、墮罪、回復の救済史観、b.) 礼拝と祈り（と神学の学び）に焦点をあて講義し、配布テキストを読む。</p>	
<p><履修条件> 霊的生活思想形成における聖書釈義の役割も重視するので、組織専攻者（組織、歴史、実践）のみならず、聖書神学専攻者の参加も歓迎する。</p>	
<p><授業計画> 第1回：参加者の目標と関心の共有。コースの紹介と導入講義「霊的生活と霊性とは何か？」 第2回：導入討論—J.マッコリーの礼拝と祈り論の内容発表と討論 第3回：講義（一）：聖書正典における「神の像、似像」としての人間と救済史観（新共同訳聖書） 第4回：講義（二）：聖書正典における「礼拝」と「祈り」観（新共同訳聖書） 第5回：史料分析（一）：古代東方教会：オリゲネスの神の像と救済史観、礼拝と祈り 第6回：史料分析（二）：古代東方教会：アタナシオスの神の像と救済史観、礼拝と祈り 第7回：史料分析（三）：古代西方教会：アウグスティヌス：神の像と救済史観、礼拝と祈り観 第8回：史料分析（四）：古代末期～初期中世教会：ヌルシアのベネディクトゥス：修道制の理念 第9回：史料分析（五）：盛期中世教会：カンタベリーのアンセルムス：礼拝と祈り、神の像と救済史観 第10回：史料分析（六）：盛期中世教会：クレルヴォーのベルナルドゥス：神の像と救済史観、礼拝と祈り 第11回：史料分析（七）：盛期中世教会：アッシジのフランチェスコ：会則と救済観、礼拝と祈り 第12回：史料分析（八）：盛期中世教会：ボナヴェントゥーラ：神の像と救済史観、礼拝と祈り 第13回：史料分析（九）：盛期中世教会：トマス・アキナス：神の像と救済史観、礼拝と祈り 第14回：史料分析（十）：後期中世教会：ヨハネス・タウラー：神の像と救済史観、礼拝と祈り 第15回：前期のまとめと総合討論。</p>	
<p><準備学習等の指示> 授業の中で指示する。原則として、予習よりも復習を重視せよ。</p>	
<p><テキスト> すべての史料は、授業毎にコピー・テキストの形で配布する。（但し聖書は除く）。</p>	
<p><参考書> J. マッコリー『礼拝と祈りの本質—新たな霊性の探求』（ヨルダン社）。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 1. 平生の授業と討論に積極的に参加する。また学期末には、以下の要件をみたす研究レポートを作成し提出する。分量は400字詰め原稿用紙で20～25枚以内。 2. レポートの内容は次の通り。a) 興味を持つ二人の人物ないし運動を選び、彼らの二次史料を読み、時代背景を調べよ。b) また彼らの第一次史料を精読し、比較して分析し、自分なりの解釈と評価を与えたレポートとせよ。</p>	

組織神学専攻・歴史神学関係	
教会史特講Ⅱ b	棚村 重行
後期・2単位	<登録条件> 通年の履修が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 「キリスト教霊的生活史」。「宗教としてのキリスト教」を構成する宗教経験、教理神学、実践、共同体などの諸側面を総合して「霊的生活」と呼び、教会史におけるその発展を歴史的に考察する。</p>	
<p><授業の概要> 後期では、宗教改革時代から現代までの霊的神学者の a)「三一神の像、似像」としての人間の創造、墮罪、回復の救済史観、b.)「礼拝」と「祈り」(および神学の学び)に焦点をあて講義し、配布テキストを読む。</p>	
<p><履修条件> 前期と同じ。</p>	
<p><授業計画> 第1回：コースの紹介。参加者の目標や関心を共有する話し合い。 第2回：導入討論—P.T.フォーサイス『祈りの精神』の内容紹介と討論 第3回：史料分析(一)：十六世紀ドイツ宗教改革(1)：M. ルターの神の像と救済史観 第4回：史料分析(二)：十六世紀ドイツ宗教改革(2)：M. ルターの神の礼拝と祈り観 第5回：史料分析(三)：十六世紀スイス宗教改革(1)：J. カルヴァンの神の像と救済史観 第6回：史料分析(四)：十六世紀スイス宗教改革(2)：J. カルヴァンの礼拝と祈り観 第7回：史料分析(五)：十六世紀対抗宗教改革：トレント公会議の救済観とI. ロヨラの『霊操』の祈り観 第8回：史料分析(六)：十七世紀ドイツ敬虔主義(1)：J. アルントの神の像と救済史観、礼拝と祈り 第9回：史料分析(七)：十八世紀ドイツ敬虔主義(2)：P. シュペーナーとA. フランケの救済観、祈り 第10回：史料分析(八)：十八世紀英国の敬虔主義：J. ウェスレーの神の像と救済史観、礼拝と祈り 第11回：史料分析(九)：十八～十九世紀米国の大覚醒運動：J. エドワーズとC. フィニーの救済観、祈り 第12回：史料分析(十)：十九世紀日本の霊的神学者：植村正久と逢坂元吉郎の救済観、礼拝と祈り 第13回：史料分析(十一)：二十世紀スイス神学：K. バルトの神の像と救済史観、祈りと神学 第14回：史料分析(十二)：二十世紀スイス神学：E. ブルンナーの神の像と救済史観、祈りと礼拝 第15回：史料分析(十三)：現代のドイツ神学：C. シュヴェーベルの神の像と救済史観、祈り観、総合討論。</p>	
<p><準備学習等の指示> 前期と同じ。</p>	
<p><テキスト> すべての史料は、授業毎にコピー・テキストの形で配布する。</p>	
<p><参考書> P.T.フォーサイス『祈りの精神』、ヨルダン社、1978)。J. マッコリー『礼拝と祈りの本質—新たな霊性の探求』(ヨルダン社)。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 1. 平生の授業と討論に積極的に参加する。また学期末には、以下の要件をみたす研究レポートを作成し提出する。分量は400字詰め原稿用紙で20～25枚以内。 2. レポートの内容は次の通り。a) 興味を持つ二人の人物ないし運動を選び、彼らの二次史料を読み、時代背景を調べよ。b) 彼らの第一次史料を精読し、比較して分析し、自分なりの解釈と評価を与えたレポートとせよ。</p>	

組織神学専攻・歴史神学関係	
教理史特講Ⅱ a	関川 泰寛
前期・2単位	<登録条件> 特になし
<p><授業の到達目標及びテーマ> キリスト教教理史の主題を定めて、一次史料に基づいて講義する。一次史料を十分理解して、各時代のキリスト教教理の特色を把握することを目標とする。</p>	
<p><授業の概要> 宗教改革者ジャン・カルヴァンの生涯と神学について学ぶ。特に『キリスト教綱要』Ⅰ～Ⅱの神論とキリスト論、聖霊論を読んで、カルヴァン神学の特色をつかむ。</p>	
<p><履修条件> 特になし</p>	
<p><授業計画> 第1回：宗教改革の時代概観：ルターからツヴィングリまで 第2回：宗教改革運動の諸相―再洗礼派や熱狂主義 第3回：カルヴァンの生涯（1）生誕から『キリスト教綱要』（初版）出版まで 第4回：カルヴァンの生涯（2）第一次ジュネーヴ滞在からストラースブルク時代 第5回：カルヴァンの生涯（3）ジュネーヴでの活動再開と改革運動の深化 第6回：カルヴァンの著作解題 第7回：カルヴァン神学の研究史概観 第8回：カルヴァン 『キリスト教綱要』を読む（1）神論Ⅰ 神認識 第9回：カルヴァン 『キリスト教綱要』を読む（2）神論Ⅱ 聖書と神認識 第10回：カルヴァン 『キリスト教綱要』を読む（3）キリスト論Ⅰ 律法と福音、キリストの三職 第11回：カルヴァン 『キリスト教綱要』を読む（4）キリスト論Ⅱ 贖罪 第12回：カルヴァン 『キリスト教綱要』を読む（5）聖霊論Ⅰ 信仰義認 第13回：カルヴァン 『キリスト教綱要』を読む（6）聖霊論Ⅱ 第14回：カルヴァン 『キリスト教綱要』を読む（7）聖霊論Ⅲ 第15回：全体に関わる質疑応答とディスカッション</p>	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト> カルヴァン『キリスト教綱要』1・2篇（渡辺信夫訳、改訳版、新教出版社）</p>	
<p><参考書> ニーゼル『カルヴァンの神学』他。教室で指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 積極的授業態度と演習の発表の内容、小論文を総合して評価する。</p>	

組織神学専攻・歴史神学関係	
教理史特講Ⅱ b	関川 泰寛
後期・2単位	<登録条件> 特になし
<p><授業の到達目標及びテーマ> キリスト教教理史の主題を定めて、一次史料に基づいて講義する。一次史料を十分理解して、各時代のキリスト教教理の特色を把握することを目標とする。</p>	
<p><授業の概要> 宗教改革者ジャン・カルヴァンの生涯と神学について学ぶ。特に『キリスト教綱要』Ⅲ～Ⅳの教会論に関わるカルヴァン神学の特色をつかむ。</p>	
<p><履修条件> 特になし</p>	
<p><授業計画> 第1回：カルヴァンと礼拝 第2回：ジュネーヴの教会の実像・カルヴァンにおける教会と国家 第3回：ローマ・カトリック教会との対立 第4回：再洗礼派と熱狂主義者との対立 第5回：カルヴァン 『キリスト教綱要』を読む（1）悔い改めについて 第6回：カルヴァン 『キリスト教綱要』を読む（2）信仰義認 第7回：カルヴァン 『キリスト教綱要』を読む（3）福音と律法 第8回：カルヴァン 『キリスト教綱要』を読む（4）キリスト教的な自由 第9回：カルヴァン 『キリスト教綱要』を読む（5）祈りと礼拝 第10回：カルヴァン 『キリスト教綱要』を読む（6）聖書 第11回：カルヴァン 『キリスト教綱要』を読む（7）選び 第12回：カルヴァン 『キリスト教綱要』を読む（8）真の教会と偽りの教会 第13回：カルヴァン 『キリスト教綱要』を読む（9）戒規 第14回：カルヴァン 『キリスト教綱要』を読む（10）洗礼 第15回：カルヴァン 『キリスト教綱要』を読む（11）聖餐</p>	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト> カルヴァン『キリスト教綱要』3・4篇（渡辺信夫訳、改訳版、新教出版社）</p>	
<p><参考書> ニーゼル『カルヴァンの神学』他。教室で指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 積極的授業態度と演習の発表の内容、小論文を総合して評価する。</p>	

組織神学専攻・歴史神学関係	
修士論文指導演習 歴史神学Ⅰ	棚村 重行
後期・2単位	<登録条件> 歴史神学の専攻者。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 歴史神学の研究と論文作成の技法を習得する。</p>	
<p><授業の概要> 後期のセミナーでは、前半は下記のテキストを読み、研究や論文作成の技法を学ぶ。後半では、各自の研究テーマについて中間報告を一回行い、学期末には研究レポートを作成、提出する。</p>	
<p><履修条件> 歴史神学専攻の大学院修士1年次生を対象とする。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 コースの紹介。各自の研究テーマの紹介。</p> <p>第2回 導入講義「歴史神学とはなにか？」</p> <p>第3回 発表（一） 澤田『論文の書き方』第一章</p> <p>第4回 発表（二） 上記テキスト、第二章</p> <p>第5回 発表（三） 同上、第三章</p> <p>第6回 発表（四） 同上、第四章</p> <p>第7回 発表（五） 同上、第五章</p> <p>第8回 発表（六） 同上、第六章</p> <p>第9回 発表（七） 同上、第七章</p> <p>第10回 発表（八） 同上、第八章</p> <p>第11回 中間発表（一） 二名</p> <p>第12回 同上（二） 二名</p> <p>第13回 同上（三） 二名</p> <p>第14回 同上（四） 二名</p> <p>第15回 総合討論、FD実施。</p>	
<p><準備学習等の指示> テキストは予め読んでおくこと。</p>	
<p><テキスト> 澤田昭夫『論文の書き方』、講談社学術文庫、2004年。</p>	
<p><参考書> J.H. アーノルド『一冊でわかる 歴史』、岩波書店、2006年。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 平生の討論参加の積極性、出席、期末レポートの評価を総合して評点を与える。 2. 期末レポートは、原稿用紙400字詰めに換算して、20～25枚以内で作成し、提出せよ。 	

組織神学専攻・歴史神学関係	
修士論文指導演習 歴史神学Ⅱ	棚村 重行
前期・2単位	<登録条件> 歴史神学の専攻者。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 大学院修士課程二年次の学生に開講される修士論文準備コース。</p>	
<p><授業の概要> 前半では、下記の最新の歴史研究入門書を読む。その後修士論文提出予定者が各自のテーマにもとづき、二回修士論文の中間発表を行う。教師と参加者は、質疑応答やコメントを通して、各自の準備を助ける。</p>	
<p><履修条件> 原則として歴史神学専攻で修士課程二年次の学生の履修を求める。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 コースの紹介と発表の決定。</p> <p>第2回 導入講義「歴史神学の研究視点」</p> <p>第3回 歴史学入門テキスト発表（一）、『一冊でわかる 歴史』 1, 2章</p> <p>第4回 同上（二）、同上書 3, 4章</p> <p>第5回 同上（三）、同上書 5, 6章</p> <p>第6回 同上（四）、同上書、7章と全体討論。</p> <p>第7回 第一次発表（一） 二名。とくに論文のテーマや構成、方法論、参考文献など。</p> <p>第8回 同上（二） 二名発表。</p> <p>第9回 同上（三） 二名発表。</p> <p>第10回 同上（四） 一～二名発表。</p> <p>第11回 第二次発表（一） 二名発表。</p> <p>第12回 同上（二） 二名発表。</p> <p>第13回 同上（三） 二名発表。</p> <p>第14回 同上（四） 一～二名発表。</p> <p>第15回 総合討論。FD実施。</p>	
<p><準備学習等の指示> テキストは予め読んで意見をまとめよ。</p>	
<p><テキスト> J.H. アーノルド『一冊でわかる 歴史』岩波書店、2006年。</p>	
<p><参考書> 後に授業で紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 授業参加態度、出席、発表の内容など総合して評価を与える。</p>	

組織神学専攻・実践神学関係	
実践神学演習 a	山口 隆康
前期・2単位	<登録条件>教会・キリスト教学校に赴任する意志の明確な者
<p><授業の到達目標及びテーマ> 実践神学演習は、実践神学の3領域、説教学、礼拝学、牧会学を扱う演習である。</p>	
<p><授業の概要> 今年度の実践神学演習は、伝道論を扱う。まず、伝道論の直面している焦眉の課題がどこにあるかを探求する。その後二つのテーマで演習を進める。第1のテーマは、これまでの伝道論の点検と吟味、再検討である。第2のテーマは、今後の伝道地日本における伝道の進展である。</p>	
<p><履修条件> Eメールで長文を送信できること（携帯メールも可）</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：伝道地としての日本と伝道論（1）、焦眉の課題とは何か</p> <p>第2回：伝道地としての日本と伝道論（2）、伝道論と福音を語るコトバ</p> <p>第3回：伝道地としての日本と伝道論（3）伝道と神学的思考</p> <p>第4回：これまでの伝道論の再検討（1）伝道と教会建設</p> <p>第5回：これまでの伝道論の再検討（2）伝道者論</p> <p>第6回：これまでの伝道論の再検討（3）伝道論と伝道組織論</p> <p>第7回：日本基督教団の伝道論の再検討（1）日本基督教団の伝道論</p> <p>第8回：日本基督教団の伝道論の再検討（1）「伝道圏伝道」について</p> <p>第9回：日本基督教団の伝道論の再検討（1）「体質改善論」について</p> <p>第10回：日本基督教団の伝道論の再検討（1）これからの日本基督教団の伝道理論</p> <p>第11回：伝道論と「伝道の幻」</p> <p>第12回：伝道史と教会史</p> <p>第13回：伝道地における伝道を前進させる説教の課題</p> <p>第14回：伝道を進める説教と説教学</p> <p>第15回：伝道を進める説教の神学</p>	
<p><準備学習等の指示> 『伝道の幻に生きる教会建設』山口隆康著、美竹文庫第1巻（日本基督教団美竹教会ホームページ参照）</p>	
<p><テキスト> 山口隆康著 『21世紀伝道の幻II』日本基督教団玉川平安教会出版部刊</p>	
<p><参考書> 演習の中で必要に応じて紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 原則として演習中の発表による評価。</p>	

組織神学専攻・実践神学関係	
臨床牧会教育 a	W. ジャンセン
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 病院での実習により、牧会的な心得を身につけること。</p>	
<p><授業の概要> 吉祥寺病院（精神科）を実習のフィールドとして、医師、看護師、ソーシャルワーカー等の協力を得、患者との面接を行い、講師のスーパーヴィジョンを受けて、実際的にカウンセリングを学ぶ。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画> *オリエンテーション *院長による精神病理の講義。病院見学。 *病棟で患者と面接を行い、ケアを与えることを学ぶ。 *面接記録をスーパーヴァイザー（担当教員）に提出し、コメントをうける。 *各学生によるケース提出とディスカッションを行う。</p> <p>第1回から第15回まで、様々な牧会ケアテーマで学び、自分の牧会者像を明確にする。</p>	
<p><準備学習等の指示> 遅刻をしないこと。 休まないこと。</p>	
<p><テキスト></p>	
<p><参考書></p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 実習の参加度によって評価する。 期末テストによって評価する。 出席が2／3に満たない者は評価の対象としない。</p>	

組織神学専攻・実践神学関係	
臨床牧会教育 b	W. ジャンセン
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 病院での実習により、牧会的な心得を身につけること。</p>	
<p><授業の概要> 吉祥寺病院（精神科）を実習のフィールドとして、医師、看護師、ソーシャルワーカー等の協力を得、患者との面接を行い、講師のスーパーヴィジョンを受けて、実際的にカウンセリングを学ぶ。</p>	
<p><履修条件> 臨床牧会教育 a を終えていること。</p>	
<p><授業計画> * 各回、各病棟におもむき、患者と出会い、カウンセリングを行う。 * 面接記録（逐語記録）をつくり、スーパーヴァイザー（担当教員）に提出し、コメントを得、話し合いをする。 * 各自のケース・レポートをし、ケース・スタディをする。</p> <p>第1回から第15回まで、様々な牧会ケアテーマで学び、自分の牧会者像を明確にする。</p>	
<p><準備学習等の指示> 遅刻をしないこと。 休まないこと。</p>	
<テキスト>	
<参考書>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 実習の参加度によって評価する。 期末テストによって評価する。 出席が2／3に満たない者は評価の対象としない。</p>	

専攻間共同科目	
日本伝道論演習 a	山口 隆康
前期・2単位	<登録条件>「牧会者」として教会に赴任する意志の明確な者
<p><授業の到達目標及びテーマ> 実践神学の中に位置づけられた「日本伝道論」は、説教学、礼拝学、牧会学を統合する教会実践を伝道地日本においてどのように進めるかを取り扱う。</p>	
<p><授業の概要> 日本伝道論 a の演習のテーマを「日本基督教団の教憲・教規」とする。 「教会法とは何か」という基礎的学習から始め、日本基督教団法制史を概観し、現在の日本基督教団の直面している諸問題を教会法の観点から考察を加えていく。</p>	
<p><履修条件> なし</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：教会法の基礎</p> <p>第2回：ローマ・カトリック教会の「カノン法」</p> <p>第3回：福音主義教会における教会法をめぐる諸課題</p> <p>第4回：日本基督教団法制史 その1 日本基督教団の成立と教会規則</p> <p>第5回：日本基督教団法制史 その2 宗教団体法と日本基督教団規則</p> <p>第7回：日本基督教団における「教憲・教規」の制定</p> <p>第8回：「教憲」とは何か。</p> <p>第9回：「日本基督教団教憲」の特徴</p> <p>第10回：「日本基督教団教憲」と「日本基督教団信仰告白」</p> <p>第11回：「日本基督教団教憲」と「会議制」</p> <p>第12回：「日本基督教団教憲」における全体教会と個教会</p> <p>第13回：「日本基督教団教憲」における教職制度</p> <p>第14回：「日本基督教団教憲」と教規</p> <p>第15回：「日本基督教団教憲・教規」と所属個教会規則</p>	
<p><準備学習等の指示> 『日本基督教団教憲・教規および諸規則』を手元におき、すぐに参照できるようにしておくこと。</p>	
<p><テキスト> 演習において配布する。</p>	
<p><参考書> 演習において紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 原則としてレポートによる。</p>	

専攻間共同科目	
日本伝道論演習 b	山口 隆康
後期・2単位	<登録条件>「牧会者」として教会に赴任する意志の明確な者
<p><授業の到達目標及びテーマ> 実践神学の中に位置づけられた「日本伝道論」は、説教学、礼拝学、牧会学を統合する教会実践を取り扱う。とくに伝道地日本において教会をどのように建設するかという課題を取り扱う。</p>	
<p><授業の概要> 本年の日本伝道論 b の演習のテーマを「日本基督教団教憲・教規」の解釈とする。「日本基督教団教憲・教規」の解釈の中で、とくに「教職論と招聘制度」に焦点をあわせる。</p>	
<p><履修条件> なし</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：「日本基督教団教憲」における教職</p> <p>第2回：「日本基督教団教憲」における教職と教会総会</p> <p>第3回：「日本基督教団教憲」における教職と信徒</p> <p>第4回：「日本基督教団教憲・教規」における招聘制度</p> <p>第5回：「日本基督教団教規」における招聘手続き その1 教会法と召命</p> <p>第6回：「日本基督教団教規」における招聘手続き その2 教職の招聘と教会役員会</p> <p>第7回：「日本基督教団教規」における招聘手続き その3 教職の招聘と教会総会</p> <p>第8回：「招聘状」をめぐる諸問題</p> <p>第9回：「日本基督教団教規」と招聘をめぐる諸問題 教規の解釈の視点から</p> <p>第10回：「日本基督教団教規」と招聘をめぐる諸問題 その1 会議制と招聘手続き</p> <p>第11回：「日本基督教団教規」と招聘をめぐる諸問題 その2 個教会の会議と招聘手続き</p> <p>第12回：日本基督教団教規」と招聘をめぐる諸問題 その3 牧師の辞任の手続き</p> <p>第13回：日本基督教団教規」と招聘をめぐる諸問題 その4 牧師の解任の手続き</p> <p>第14回：「日本基督教団教憲教規の解釈に関する先例集」（2009年9月刊）にある問題点</p> <p>第15回：「日本基督教団教憲教規の解釈に関する答申集」（2010年12月刊）にある問題点</p>	
<p><準備学習等の指示> 『日本基督教団教憲・教規および諸規則』を参照できるようにしておくこと。</p>	
<p><テキスト> 演習において必要に応じて配布する。</p>	
<p><参考書> 演習において必要に応じて紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 原則としてレポートによる。</p>	

専攻間共同科目	
アジア伝道論演習 a	朴 憲郁
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>アジア諸国への福音伝道は、誰がどのような展望と使命によって推進されたのか、また伝道された非キリスト教諸国の人々は独自の文化・宗教・言語圏の中でどのように受容し、反応したのかを知る。それをこのたびは、20世紀後半の代表的宣教学者の伝道理解を学ぶ。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>伝道(宣教)学とは何かを序論として解説した後、ヒンドゥー教国のインドで長年宣教活動にたずさわったイギリス出身の宣教師、レスリー・ニュービギンの「宣教学」を一つ一つ学ぶ。</p>	
<p><履修条件></p> <p>特になし</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 序説1－伝道(宣教)学とは何か－ 2. 序説2－アジア・キリスト教伝道論－ 3. 序説3－キリスト論的三位一論における諸宗教との対話－ 4. 序説3－韓国におけるキリスト論的三位一論の展開の試みとその批判 (以下、テキストに従って、5～14まで学生発表と講義) 5. 議論の背景 6. 権威の問題 7. 三位一体の神の宣教 8. 御父の御国を宣べ伝えること－信仰としての宣教－ 9. 御子の生を分かち合うこと－愛としての宣教－ 10. 聖霊の証しを担うこと－希望としての宣教－ 11. 福音と世界の歴史 12. 神の正義のための行動としての説教 13. 教会成長、改宗、文化 14. 諸宗教の中の福音 15. アジア伝道の反省と展望(講義) 	
<p><準備学習等の指示></p> <p>指定テキストの中から、毎授業で扱う範囲の箇所を事前に読んで理解を深めておくこと。</p>	
<p><テキスト></p> <p>レスリー・ニュービギン、『宣教学入門』、鈴木脩平訳、日本キリスト教団出版局編、2010年。</p>	
<p><参考書></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 朴憲郁(Heon-Wook Park)、Perspective of the Northeast Asian Mission from the Viewpoint of Pauline Theology - Focused on Christology -, 『神学』72号、東京神学大学神学会、2010年、教文館、143～166頁 	
<p><学生に対する評価(方法・基準)></p> <p>授業時の発表、参加度、学期末レポートなどによって評価する。</p> <p>出席が2/3に満たない者は評価の対象としない。</p>	

実践神学研修課程	
説教学演習 I	山口 隆康 小泉 健
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 説教学の基本を学び、説教作成の方法を身につける。</p>	
<p><授業の概要> 説教準備の一つ一つの段階の意味について考察しつつ、第一の黙想から説教行為までの実際に取り組む。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 現代説教学の課題 第2回 説教とコトバ、説教テキストの朗読 第3回 説教黙想論 第4回 作成（1）第一の黙想 第5回 作成（2）説教テキストの本文批評と私訳 第6回 積義と説教準備をめぐる諸課題 第7回 作成（3）テキストの積義 第8回 「解釈と適用」の問題 第9回 説教黙想とは何か 第10回 会衆をめぐる黙想 第11回 説教黙想の実例 第12回 作成（4）説教黙想 第13回 説教の構造と構成 第14回 説教の始め方と終わり方 第15回 説教の演述</p>	
<p><準備学習等の指示> 聖書全巻を通読しておくこと。</p>	
<p><テキスト></p>	
<p><参考書> テーマごとにクラスで指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 説教作成の諸段階で、その都度レポートを提出する。遅れて提出することは認められないので、その都度必ず提出すること。</p>	

実践神学研修課程	
説教学演習Ⅱ	山口隆康 小泉 健
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 説教学の基本を学び、実際になされた説教を分析する方法を身につける。</p>	
<p><授業の概要> 説教分析の方法論を明確にし、実際になされた説教を取り上げて、説教分析に実際に取り組む。</p>	
<p><履修条件> 説教学演習Ⅰを履修済みの者</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 会衆席の説教学 第2回 説教分析論、なぜ説教を分析する必要があるのか。 第3回 説教分析の方法 「分析素」の定め方をめぐる問題 第4回 印象批評と第一印象論 第5回 分析（1）第一印象の収集 第6回 分析（2）説教の構造と構成 第7回 説教の構造と構成をめぐる諸問題 第8回 分析（3）説教における説教者 第9回 説教における説教者をめぐる諸問題 第10回 分析（4）説教における聞き手 第11回 説教における聞き手をめぐる諸課題 第12回 分析（5）説教と説教テキスト 第13回 説教と説教テキストをめぐる諸問題 第14回 分析（6）説教における神の名 第15回 説教における神の名</p>	
<p><準備学習等の指示> 聖書全巻の通読を続けること。配布される論文、説教を十分読んで準備すること。</p>	
<p><テキスト> 毎回、使用するテキストを教室で配布する。</p>	
<p><参考書> テーマごとに教室で指示する</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 発表と授業への参加度、期末のレポートによって評価する。</p>	

実践神学研修課程	
説教学演習Ⅲ	近藤 勝彦
後期・2単位	<登録条件>この後期をもって博士課程前期過程を修了する学生
<p><授業の到達目標及びテーマ> キリスト教伝道者、教会牧師としての説教の構えを養い、説教の準備から実際に説教を行うに至るまでの訓練を行う。</p>	
<p><授業の概要> 毎回、その都度ごとに指定された聖書箇所に従って、担当者が説教し、それを手がかりに説教の姿勢、準備、内容の構成などについて指導する。</p>	
<p><履修条件> この後期をもって博士課程前期過程修了の目途がたっていること。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1、説教演習のためのオリエンテーション 2、説教するうえでの心得、準備過程、聖書テキストの選択、説教題、原稿に書くことと説教すること、説教の姿勢 3、マタイ9・1-8による説教、聖書注解と説教黙想 4、ルカ10・38-42による説教、説教の導入と構成 5、ローマ5・1-11による説教、聴衆の文脈とアピール力 6、詩編23編による説教、説教における牧会 7、ヨハネ3・1-15による説教、説教と神学（教理） 8、これまでのまとめと反省 9、創世記32・23-33による説教、説教による伝道 10、ローマ8・31-39による説教、説教による教会形成 11、詩編118編による説教、説教における倫理的勧め 12、ペテロの手紙一2・21-25による説教、説教による時代批判 13、エレミヤ書23・16-32による説教、説教における例話、文学など 14、コリント二5・14-21による説教 15、まとめ 	
<p><準備学習等の指示> 各自の担当箇所についてよく準備すること。他者の説教を聞き、その長所からも、また短所からも学びあうこと。</p>	
<p><テキスト> 各自担当の聖書箇所</p>	
<p><参考書> 当該箇所の注解書、説教黙想、説教集など</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 演習への参加態度（出席は三分の二以上であること）と、各自の説教演習の提出によって評価する。</p>	

実践神学研修課程	
礼拝学演習	山口 隆康
後期・2単位	<登録条件>修士論文を提出し、2013年4月に教会・学校に赴任する意志の明確な者
<p><授業の到達目標及びテーマ> 実践神学を牧師学としてとらえ、教会を牧する者が身につけるべき基本を学ぶ。</p>	
<p><授業の概要> 主日礼拝と諸儀式の責任を教職として果たすために必要な知識と方法を身につける。</p>	
<p><履修条件> 原則として全回出席できる者</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：礼拝学的思考の特質について</p> <p>第2回：礼拝史の概観 初代教会の礼拝</p> <p>第3回：礼拝史の概観 古代教会の礼拝</p> <p>第4回：礼拝史の概観 ローマ典礼と中世の教会</p> <p>第5回：礼拝史概観 宗教改革期の礼拝 ルターを中心に</p> <p>第6回：礼拝史概観 宗教改革期の礼拝 カルバンを中心に</p> <p>第7回：日本基督教団の礼拝式文</p> <p>第8回：主日礼拝における祈り</p> <p>第9回：葬儀の司式と祈り</p> <p>第10回：結婚式の司式と祈り</p> <p>第11回：聖餐礼典をめぐる諸問題</p> <p>第12回：洗礼礼典をめぐる諸問題</p> <p>第13回：ローマ・カトリック教会と典礼刷新運動について</p> <p>第14回：牧会と執り成しの祈り</p> <p>第15回：家庭礼拝と牧会活動</p>	
<p><準備学習等の指示> 『日本基督教団式文』、ナーゲル著『キリスト教礼拝史』（松山訳）に目を通しておくこと。</p>	
<p><テキスト> 教室で必要に応じて配布する。</p>	
<p><参考書> 演習クラスにおいてテーマごとに紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 原則としてレポートによる。</p>	

実践神学研修課程	
牧会学演習	山口 隆康
後期・2単位	<登録条件>修士論文を提出し、2013年4月に教会・学校に赴任する意志の明確な者
<p><授業の到達目標及びテーマ> 実践神学を牧師学としてとらえ、教会を牧する者が身につけるべき基本をまなぶ。</p>	
<p><授業の概要> 教会の実践活動という教会教務の責任を果たすために必要な知識と方法を身につける。</p>	
<p><履修条件> 原則として全回出席できる者</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：牧師学としての実践神学</p> <p>第2回：「牧師職」について</p> <p>第3回：葬儀とその周辺をめぐる諸課題</p> <p>第4回：病者の牧会をめぐる諸問題</p> <p>第5回：結婚と離婚をめぐる諸問題</p> <p>第6回：キリスト者の家庭と信仰の継承</p> <p>第7回：洗礼へ導きと受洗準備</p> <p>第8回：聖餐礼典と牧会活動</p> <p>第9回：教会会議と議長職</p> <p>第10回：牧会と「教憲・教規」</p> <p>第11回：個教会における牧会と「教憲・教規」</p> <p>第12回：全体教会である日本基督教団</p> <p>第13回：日本基督教団の招聘制度と牧会</p> <p>第14回：教職の招聘制と諸問題</p> <p>第15回：召命と按手・准允</p>	
<p><準備学習等の指示> トゥルナイゼン『牧会学Ⅰ、Ⅱ』（加藤訳）に目を通しておくこと</p>	
<p><テキスト> 教師が必要に応じて配布する。</p>	
<p><参考書> 演習クラスにおいてテーマごとに紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 原則としてレポートによる。</p>	

実践神学研修課程	
総合特別講義	山口 隆康
後期・4単位	<登録条件> 修士論文を提出し、2013年4月に教会・学校に赴任する意志の明確な者
<授業の到達目標及びテーマ>福音主義教会が現在直面している問題、課題に適切に対応していくために必要な学びである。	
<授業の概要>その分野の専門家が、テーマごとの講義を行うオムニバス形式の総合講義である。	
<履修条件>原則として全回出席できる者	
<p><授業計画></p> <p>第1回：山口隆康教授「日本基督教団史Ⅰ」日本基督教団の成立前史</p> <p>第2回：山口隆康教授「日本基督教団史Ⅰ」日本基督教団の成立</p> <p>第3回：山口隆康教授「日本基督教団史Ⅰ」日本基督教団の成立と会派問題</p> <p>第4回：山口隆康教授「日本基督教団史Ⅰ」教憲・教規、信仰告白の制定とその後の歩み</p> <p>第5回：長山信夫講師「日本基督教団史Ⅱ」教団史と紛争史の視点</p> <p>第6回：長山信夫講師「日本基督教団史Ⅱ」「教団紛争」とはなんであったか？</p> <p>第7回：長山信夫講師「日本基督教団史Ⅱ」紛争史の問題点と問題項目</p> <p>第8回：長山信夫講師「日本基督教団史Ⅱ」紛争史の文脈における現在の日本基督教団</p> <p>第9回：大住雄一教授「日本基督教団論」日本基督教団教憲</p> <p>第10回：大住雄一教授「日本基督教団論」日本基督教団教規</p> <p>第11回：大住雄一教授「日本基督教団論」所属教会の教会規則（準則）</p> <p>第12回：大住雄一教授「日本基督教団論」宗教法人法と宗教法人規則</p> <p>第13回：栗林輝夫講師「部落解放とキリスト教Ⅰ」</p> <p>第14回：栗林輝夫講師「部落解放とキリスト教Ⅰ」</p> <p>第15回：東岡山治講師「部落解放とキリスト教Ⅱ」</p> <p>第16回：東岡山治講師「部落解放とキリスト教Ⅱ」</p> <p>第17回：小島誠志講師「地方伝道」</p> <p>第18回：小島誠志講師「地方伝道」</p> <p>第19回：及川信講師「青年伝道」</p> <p>第20回：及川信講師「青年伝道」</p> <p>第21回：本間義信講師「刑務所伝道」</p> <p>第22回：本間義信講師「刑務所伝道」</p> <p>第23回：シュー士戸 ポール講師「ITと伝道」</p> <p>第24回：シュー士戸 ポール講師「ITと伝道」</p> <p>第25回：山崎ハコネ講師「高齢者ケアと牧会」</p> <p>第26回：山崎ハコネ講師「高齢者ケアと牧会」</p> <p>第27回：篠浦千史講師「障がい者と教会」</p> <p>第28回：篠浦千史講師「障がい者と教会」</p> <p>第29回：朴米雄講師「在日コリアン問題」</p> <p>第30回：朴米雄講師「在日コリアン問題」</p> <p>第31回：愛澤豊重講師「キリスト教系諸宗団の問題」</p> <p>第32回：愛澤豊重講師「キリスト教系諸宗団の問題」</p> <p>第33回：石橋秀雄講師「教会付属幼稚園・保育園（所）の諸問題」</p> <p>第34回：石橋秀雄講師「教会付属幼稚園・保育園（所）の諸問題」</p> <p>第35回：棚村重行教授「エキュメニズムⅠ（世界のエキュメニズム）」</p> <p>第36回：棚村重行教授「エキュメニズムⅠ（世界のエキュメニズム）」</p> <p>第37回：朴憲郁教授「エキュメニズムⅡ（東アジアのエキュメニズム）」</p> <p>第38回：朴憲郁教授「エキュメニズムⅡ（東アジアのエキュメニズム）」</p> <p>第39回：野村忠規講師「牧会者の挫折とその克服」</p> <p>第40回：野村忠規講師「牧会者の挫折とその克服」</p> <p>第41回：近藤勝彦教授「教会と神学校」</p> <p>第42回：近藤勝彦教授「教会と神学校」</p> <p>※講師は予定。当該年度に決定する。</p>	
<準備学習等の指示>日本基督教団の補教師試験を受験する者は、「補教師試験の過去問題集」に目を通しておくこと。	
<テキスト>「日本基督教団史」「教務関係書式集」「日本基督教団教憲教規および諸規則」	
<参考書>担当教授、講師が講義の中で紹介する。	
<学生に対する評価（方法・基準）>レポートによって評価する。	